



河内名所圖會卷之六

讚良郡

慈眼寺

本堂 羅漢堂

太子堂

駒山

龍光寺

龜間川

和田源秀墓

雁塚

清滝溪

龍尾寺

飯盛山

飯盛山城

津鉾神社

高宮神社

秦氏墳

鍛冶行綱宅址

茨田郡

慶屋川

德菴川

高瀬里

高瀬神社

藥作堂

深野池

棟正行墓

國中神社

須波麻神社

水室址

大杜祖神社

牛頭天王

龍間寺

長教碑

清滝嶺

御机神社

忍岡

細屋神社

高瀬川

常彌寺

高瀬淀

石塔墳

野上治兵衛

門 九 4
號 4565
卷 6

豊田 大學 図書館
第 34.6.19 号
藏 書

交野郡

巖船 船返滝 妙見山 妙見山
 住吉祠 八幡宮 旗立松 星田尊蹟
 星石 蒙盆女址 明光寺 本寺掛堂
 獅子窟寺 須弥寺 嬰兒山 傍尔川
 天福石 無慮洞 牛眼石 長寶寺
 虎嘯石 阪路慈門 坂口 満家
 觀音寺 私郡故城 光通寺 機物祠
 氷室趾 本塚 中塚 交野山
 梅塚 元寺瀧 三宮 杉妙泉
 平塚 津田故城 尊延寺 明尾寺
 觀音寺 尊延寺 國見山 安樂寺
 總谷川 博士王仁墓

堤根神社 野口 勿入淵 守口驛
 名産糟菜 三社権現祠 白山祠 津島郡神社
 大窪莊中西家 佐太 依太天満宮 社天神
 神寶 來迎寺 茨田故堤 文祿堤
 菅相寺 茨田池 杉子絶間址 供御領
 大歳祠 絶間池 躰絶山 蛇池
 古川 躰絶池 大塚 三ツ井
 龍光寺 光善寺 大塚 膳塚
 意賀美神社 百濟王女墓 官女塚 御茶屋
 伊加賀 山崎院址 牧方驛 東本願寺御坊
 牧方故城 牛頭天王祠 萬年寺 牧方渡口
 西本願寺御坊 鷹塚山 藏ヶ谷 牧方渡口
 監船所 名産蓮 艸 貨倉船 西氏



又久きこと
 寒し
 日くんの
 山

逆日の妻を不素
 難波人の手に
 如きうのわく歩
 春乃真う長

来山

山田池	鳥立原	百海王祠	郊祀壇廢蹟	渚杜	久須々美神社	葛葉野	继繩別莊	百濟王廢仲
大池	百重原	中宮池	波瀲院古蹟	渚岡	二之宮	樟葉宮	弥勤寺址	文黑磨
天河	車塚	宇久米塚	五本橋	交野神社	舟橋川	楠葉渡口	帳掛松	黄金橋
交野原	和田寺	長者故居	一之宮碑	片足羽川	釋迦堂	百海王敬福	洞ヶ原	



野崎観音
天王社



河六ノ三

太子堂

讀良郡

東と和州平郡那の界小至る處、湖田郡の界小至る處、南と河内郡那の界小至る處、北と交野郡那の界小至る處

氣持六帖

は、か、は、も、と、ら、此、河、内、路、小、約、を、と、り、ま、り、ま、り、し、り

おまゝ
行家

福聚山慈眼寺

聖徳村小あり
禪宗曹洞

辛尊十一面觀音

唐作長三尺六寸又二十三所、觀音像、河口郡の像、偶小辛尊堂小あり

藥師堂

辛堂の南

阿弥陀堂

茶師堂の、像小あり

羅漢堂

十六羅漢四天王、松安に

鐘堂

法中の像、小あり

支那山と南天竺波羅奈國大悲の聖蹟を摸して古刹とす

辛年既小休し今小至る寺前乃澤人吟ん波羅奈澤

少の惜哉中古以来傳記喪び只郷童の口碑証とん

故小開闢の辛代辛實詳る大慈悲像も何人の跡とん

寺宇の権輿も分明る片拵一條院清宇小拵別難波にん

渡口小位しと由の縁客飯食と英女あり世小とんを

河口郡とありあつ沈痾小罹く醫療の驗し小かし常小

聞ると和州初瀬寺の親母靈應殊小勝とせぬ、既小かの地り

恭茲しと懇小禱し一七日満願の時靈感甚感、瑞巖と高僧

来りしと曰河内野崎福聚山と我小異なり其所の大悲小懇

求せば所願空しかに妓女羞覺く歡喜し直小帰くは小

来り辛尊致致禮七晝夜小満ぬれを忽病癒治金にこれと

傳聞と四來の緇素遠村近郷と小群れ又野崎を去る

二里許ありと御供田中名はるものと南寺の設小宛ぬる

厥后 龜山帝の朝小権大僧都實慶尚小寺職して弘長

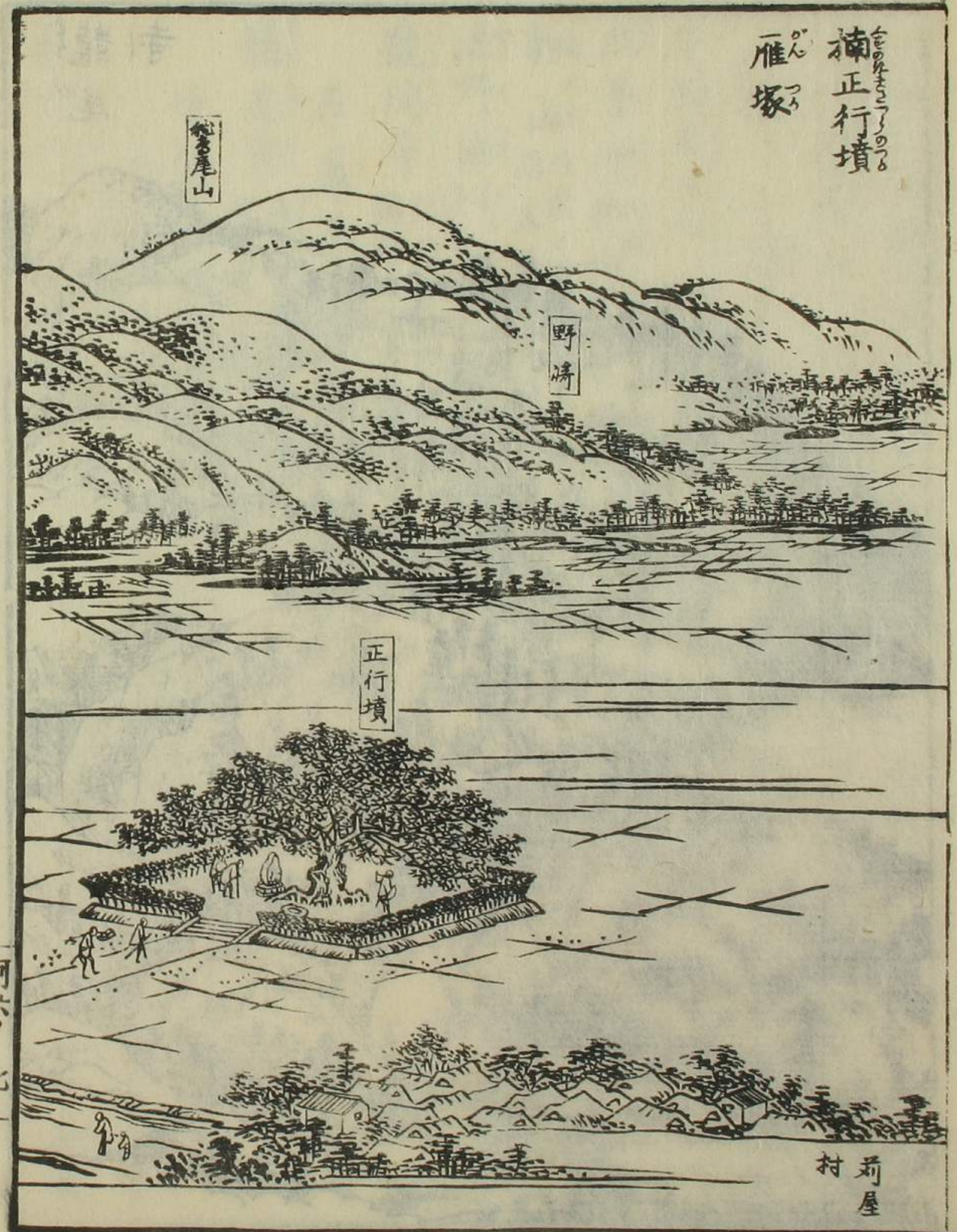
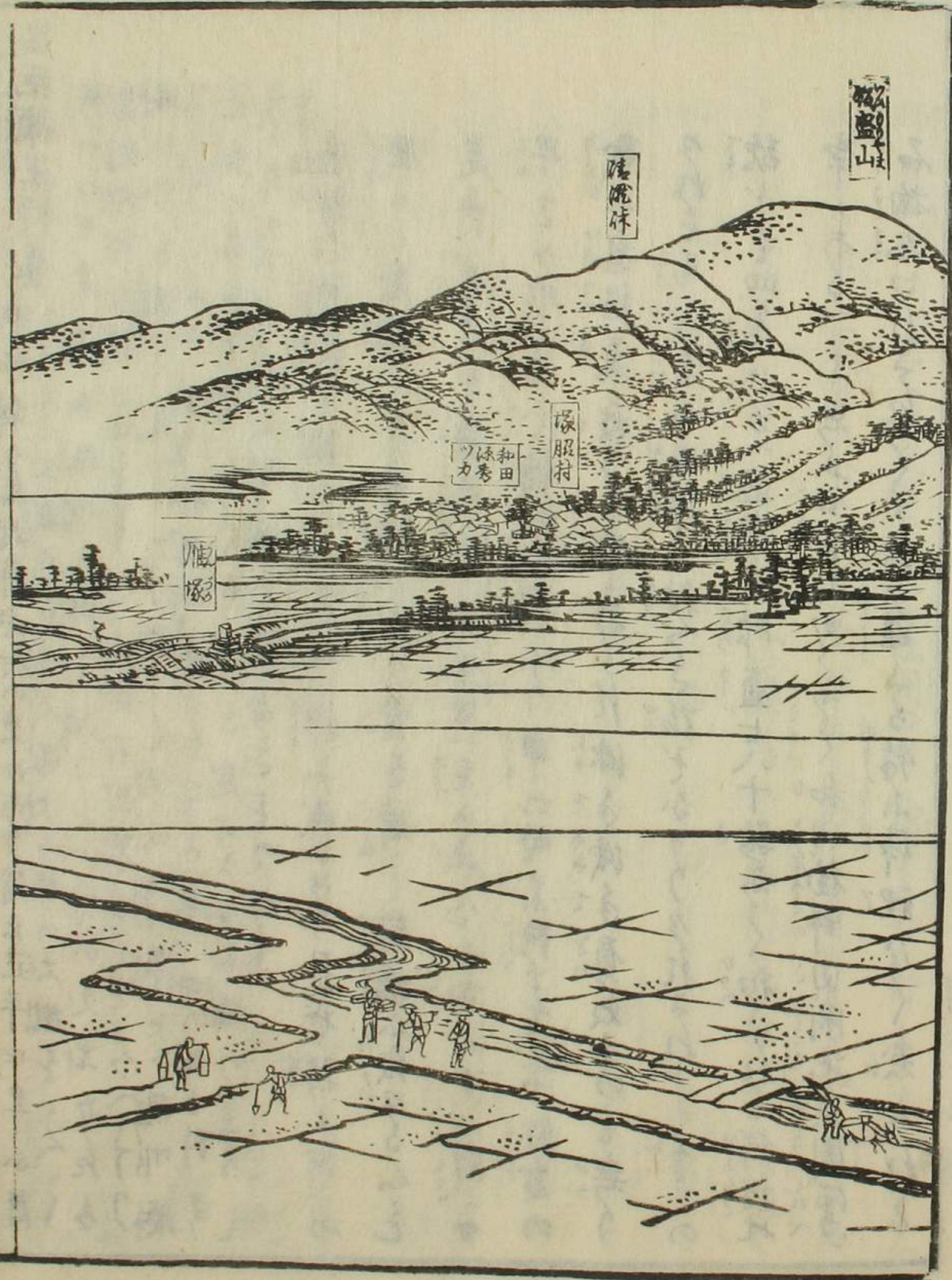
元年小寺記を書り又 伏見院の清時沙門入蓮とあり小

徑しと衰弊致りしと力を優婆塞秦氏小勸くを修

せしは時小立石塔婆今小存れ又其後弘長八年松永

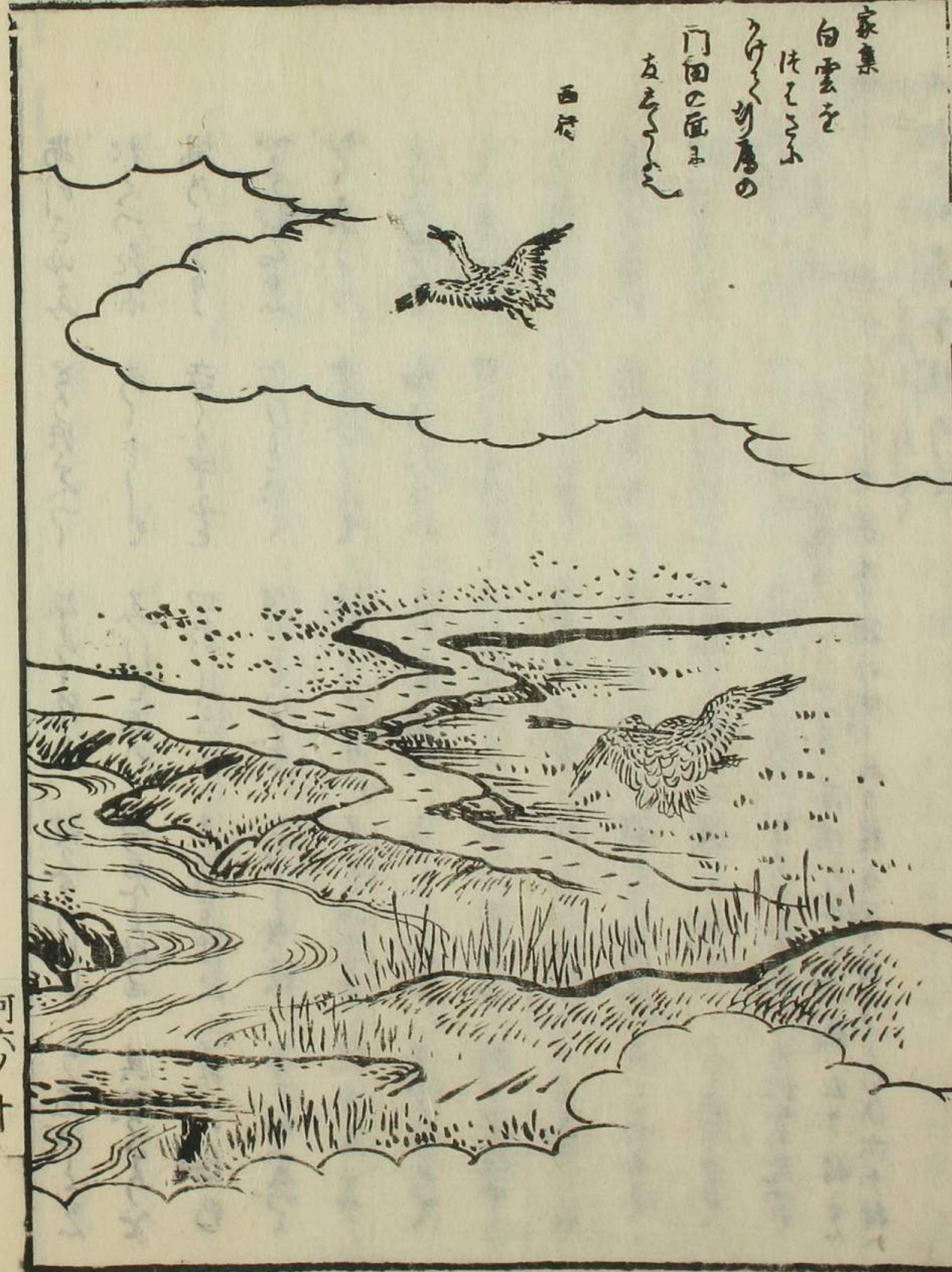
久秀志貴棟小茲とて近隣勅札の時佛圖兵發小懼く

灰燼とあり漸辛尊實慶寺記の遺り其と今



見知らく和回が後へ立回諸膝切く倒る所を走寄て頸に撞ん中
 ちり小和回新夜衣朱衣酒さす赤めくさる大の眼を見用く
 湯濱本宮を丁と睨む其眼終小塞をさす湯濱小首成せ
 取られける大剛の者小睨されく湯濱臆してや有らん其日より
 痛付く身心悩れしるる御もは和回忿る顔之小見之俯は
 新發意が睨める眼地小見く悲霊五體成責しる軍散
 して七日を申し小湯濱あが死せぬ死より傷大塚掃非助
 子と負しうりける挿ふ成跡小あさしりもあて放馬の有り
 乃小打棄く遙小落延りりる和回挿討れりやと聞く
 只一騎馳歸り大勢の中へ急入く切死ふらせ死ふられ
 〇吊桶帶刀君之古墓歌 洛東老樵岡田廬蒿蹊述
 ちり姑実乃 父のとくを けりて妻の とれいあふ まけりひく
 けりるよよ 妻めくきの 湯代もさぞ おのが代まを ぬきよをひて

あがさゆみ どのほつ 後さゆふ けさまりし うらむいとま
 ねくつたふ あくきも みれむ泪の 阿免と物る 其せごりど
 風乃やまき きくの中を 切形しさい またの荒壁れ ぶあはぬ
 びくむんま かしもねく 時をもちあ おい奥儀 命をささぐ
 かくまがり 意れりてあて 後うらんを あつら身を 仇うらま
 きていれんと ちかたふみ うり書繩の 死とすちふ さひごめて
 ぞくせふふ ねくふふも あくぬ身ま 飯のせりと 何うは中
 ふこえあけい ちかたふし 妻ささるを 何ううぬの ぶもさく
 ち渡野色の 赤とけぬが 志うあれや 親のう海成 ちくろあ
 忍ぶまめさる みるほりこ 志那小載 楠の樹ま 石小形さすて
 世傳人結 ちりほつ ちりほつ ちりほつ ちりほつ ちりほつ
 予は去を望み碑を建てて微塵のりよのゆへに古懐の地を遊歴九ヶ村ま
 堀ありしと論法一定せ凡其九ヶ村の中三ヶ村を是れりしとらひ六ヶ村
 成統の時帝を倒れし



家集
 白雲を
 ほこるふ
 りくくしるの
 門田の面
 左とくし

西花

河六ノ十

郡田茨

高宮神社 高宮村あり延喜式曰大月次新嘗三代實孫云

高宮大社祖神社 高宮村の東にあり

細屋神社 延喜式小瀬田郡小入を秦村小あり今天神と稱す

秦氏墳 秦村小あり土人秦川勝の塚と云

鍛冶秦行綱宅址 秦村小あり相傳後鳥羽上皇諸別の名通を

苗胤秦包平 秦村小あり

茨田郡 東に瀧良郡の界あり西に淀川を界あり南に

寢屋川 瀧良郡の東にあり流るる

徳菴川 瀧良郡の東にあり流るる

高瀬川 瀧良郡の東にあり流るる

見りて世に末に死する者此川日と川小あり六月毎の以

源昨光

高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

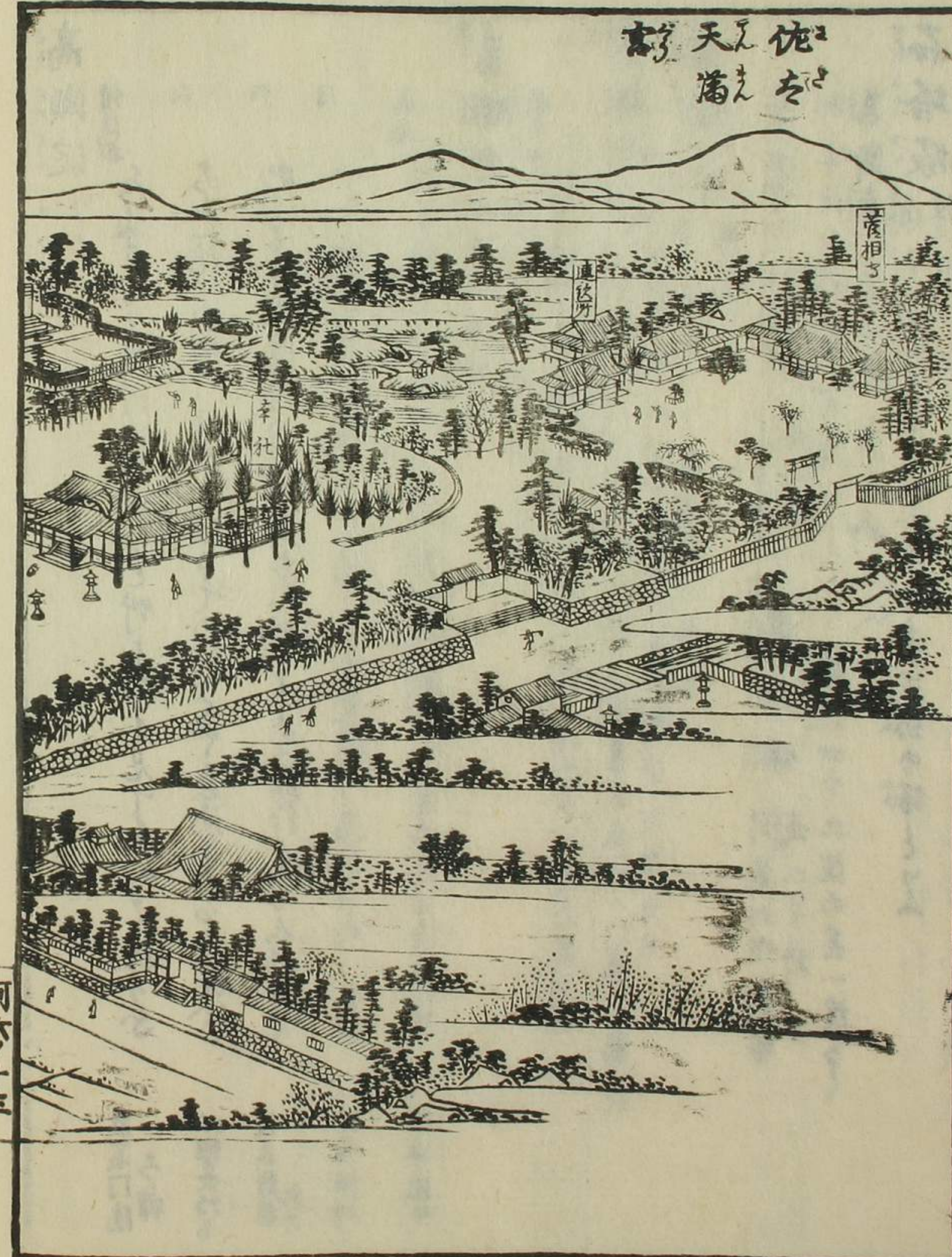
高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

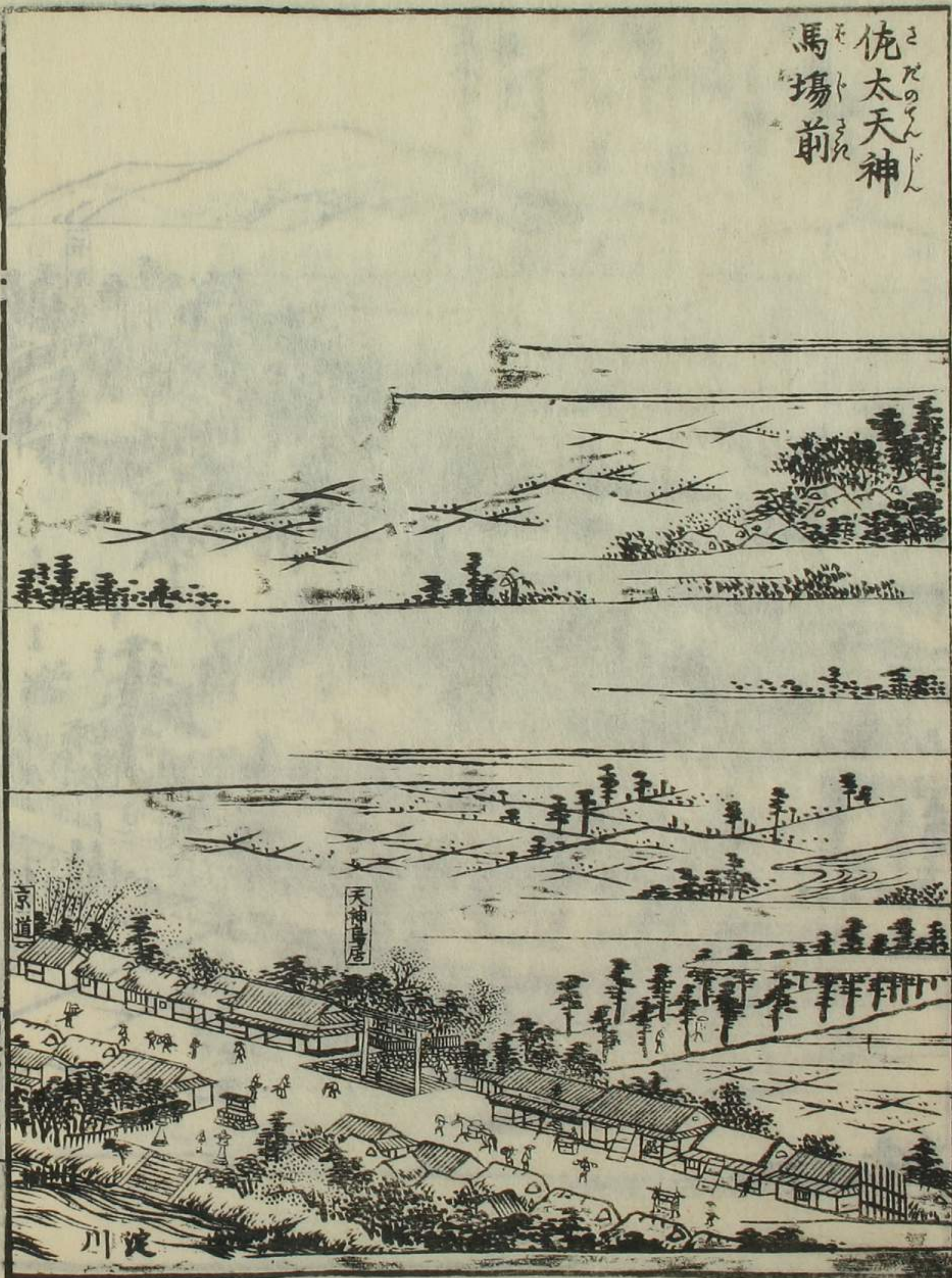
高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を

高瀬淀 日所を



佐太天神
馬場前



堤根

神社 常孫寺村小あり 延喜式出 今天満宮と称は 色常孫
例 皇九月十五日 傳小神宮寺 本...

野口

常孫寺の隣村
夫亦

涉猪形丸腰の尾をひくを現用とけ 元徳をくふ巻

信實

新六

志しき野の里不富りて道の芝生ふ今昔なり

信實

勿入 諸福村小あり 土人内助ヶ瀬と号ふ 又日村小千町 瀬と号ふ
千首 皆れかしく身と云川めんと云川水のそりこれ月よあつその瀬 為尹

守口

驛 桧洲東生那の界また西南十二町小あり 山列の界橋本金橋より
名産 糟菜 守口村よりある長菜 藤茄子 瓜 刀 豆の類を多く 糟菜あり

三社権現祠

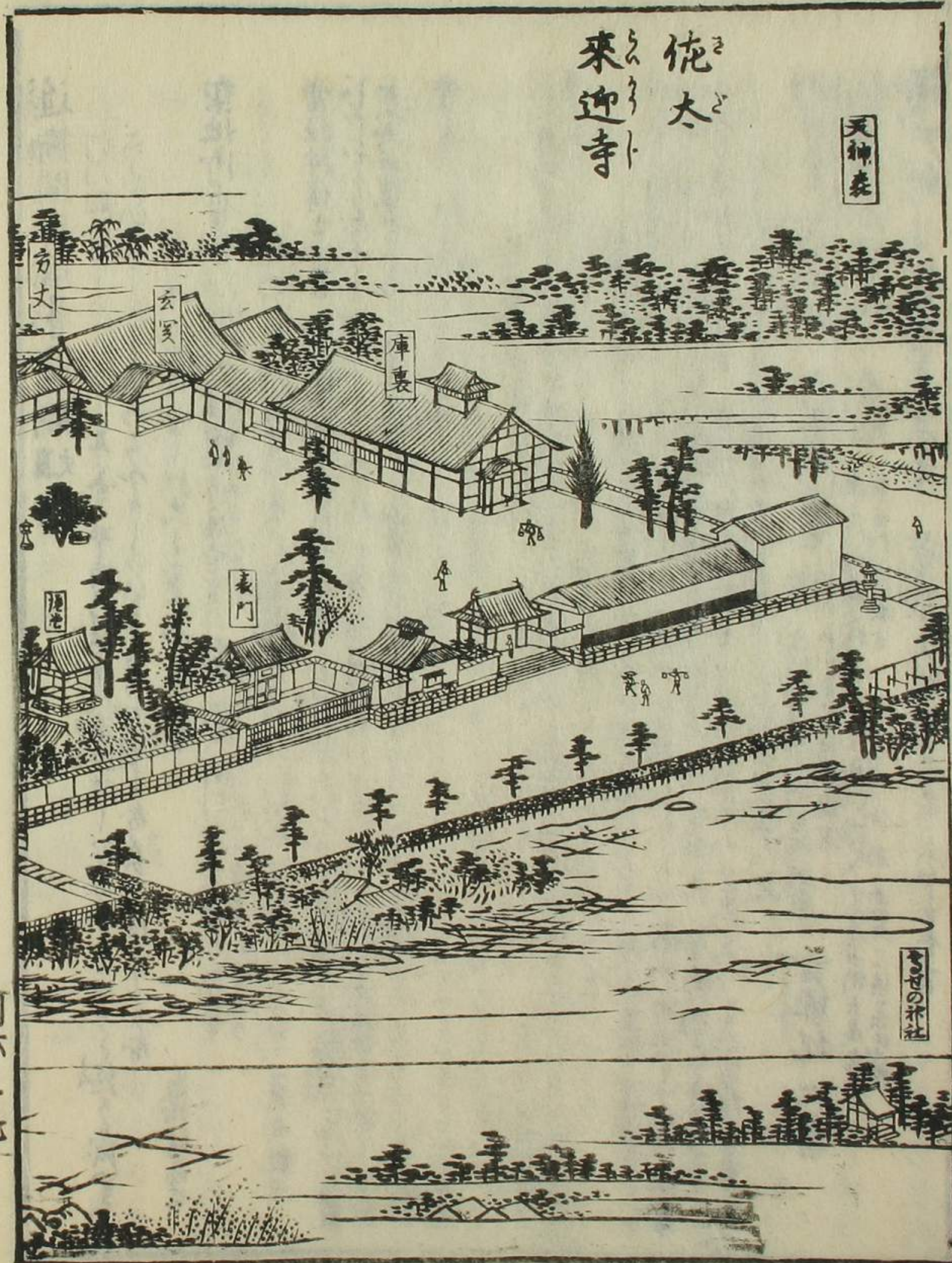
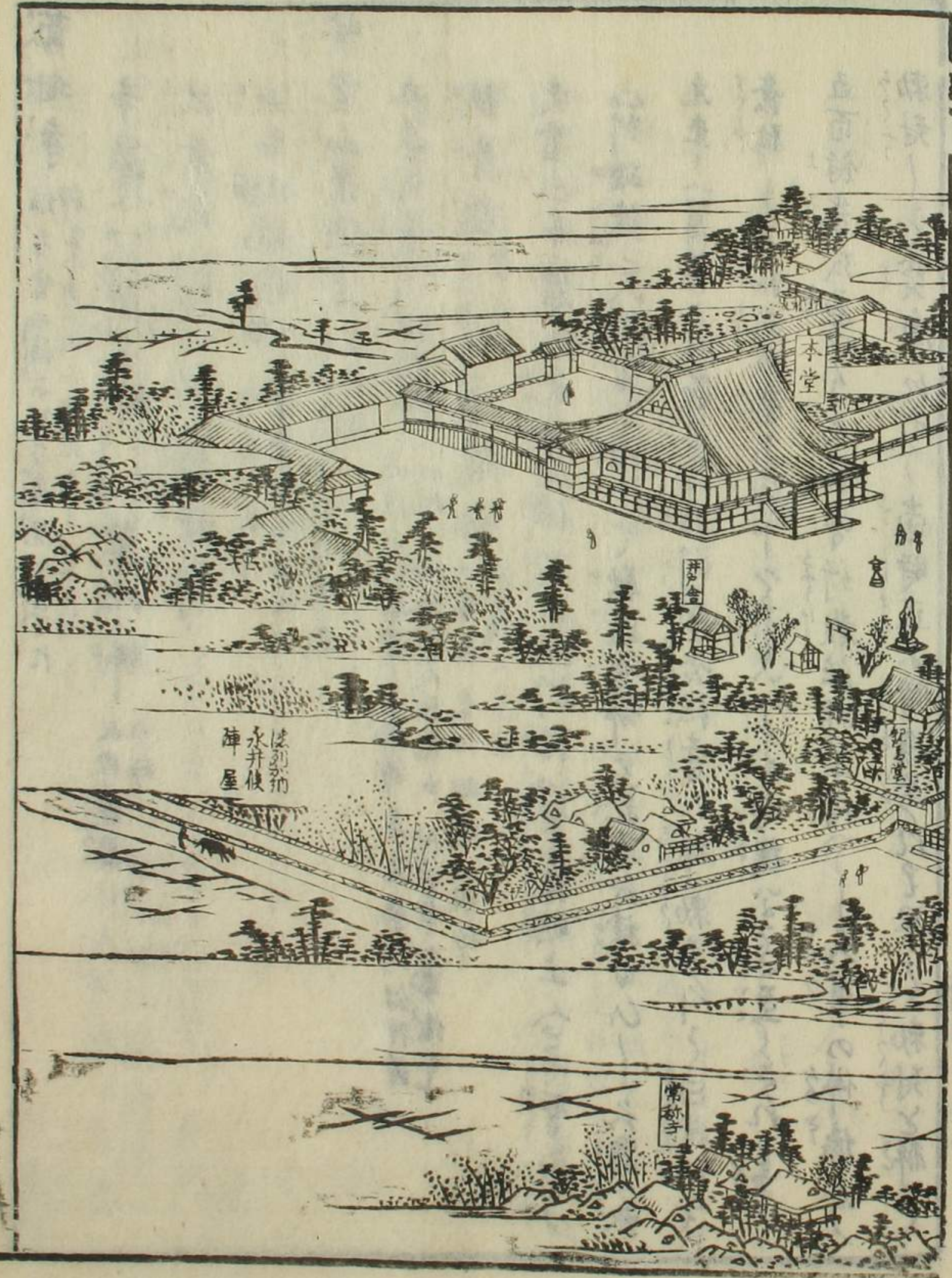
は色の生土神とれ

白山権現祠

六番村の中小あり 相屋 喜日の神 南村と三妻村
本地 正觀 音と 行 墓の作長五尺 尚社の舊地と六番村

津島郡神社

整敷 延喜式出 金田村小あり 嘉祥三年十一月 從
五位下 次授く 尚村と野馬 江村と共小生土神とれ

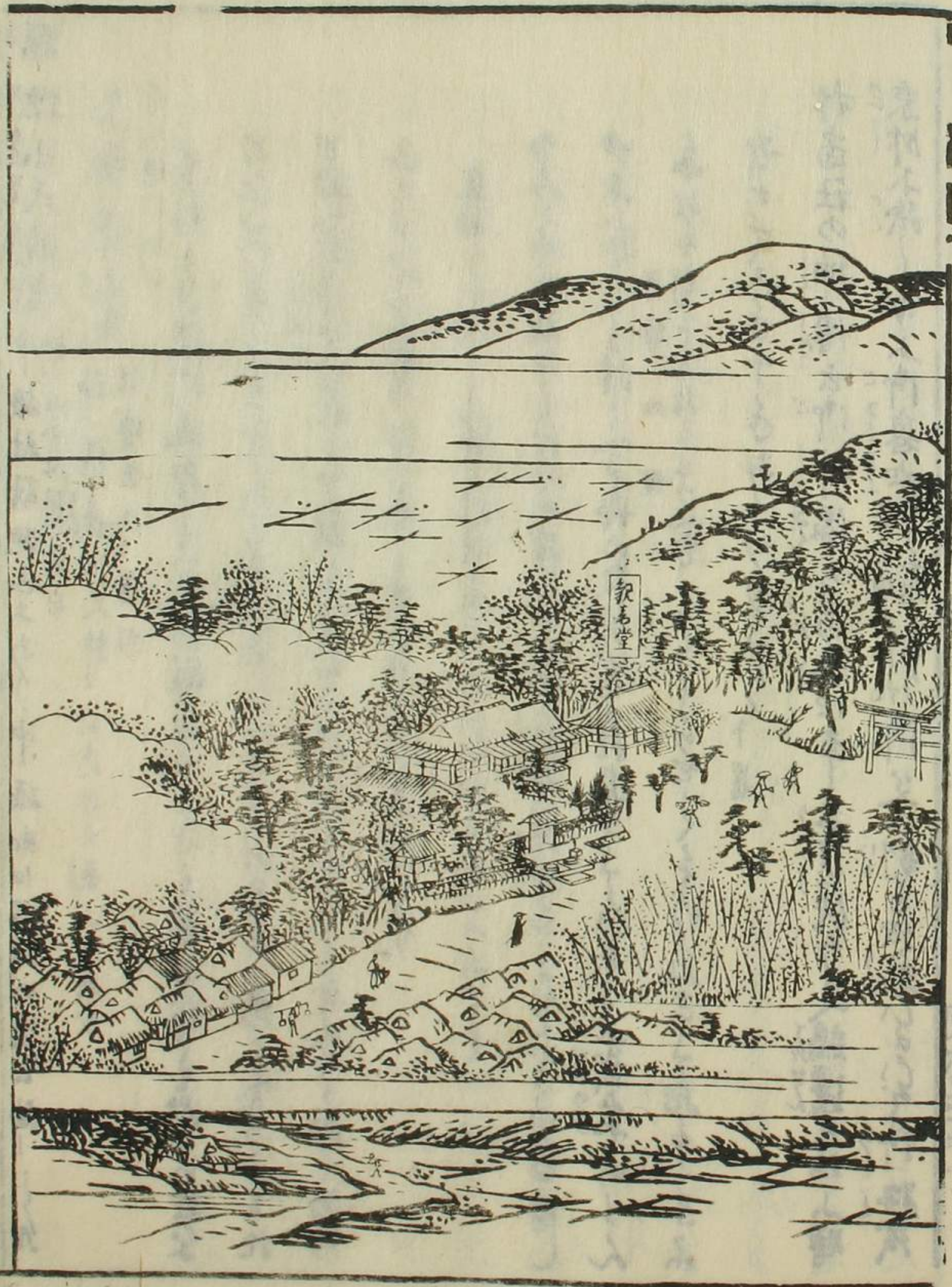




珍子絶間ハ
 茨田岨の贅ホ
 かん車瓜
 歎と瓢の
 謀とて
 舟中の邪
 魔と退け
 命瓜全くそ
 帝も敬感
 ありて
 官禄と
 賜さるる
 入
 子代通



河六十九



天満宮
蹠山

蹠山



河六丁

龍山天満宮 中振村 龍山 二村の生土抽

龍山天満宮 例 祭九月五日 河内禮云 長六尺五分

龍山天満宮 菅公須記云 社傳云 神像長四尺許 河内禮云 長六尺五分

それより淀川尻なりとて河瀬道なりとて架ねられたるなり

とひふ事ハかんとくろとあれあまろ先を神勢ありて人あくとら

と好く思はれこの莊より所ありてむるはくれいゝかんやうとく乃

とまんとと形りある事一せかりてとあつて

まゆりのり一みやこれ其業より一はつひをゆるてあること

ありとや乃國なまはの浦よふ今龍波の唐津なりとてなりをばし

ゆふ小せころはとる舟の敷ひひとらあまつひあふ小我あふらん

舟はと勢そつらうまんととて一らせくそのぬきつて船とてまふ

たれてみふ十子母一ツワツワ 下畧

折南社の神傳云 神像を昌泰四年菅公決つて龍運をなす時

京師小張一ゆふ神息女 菅公須記云 社傳云 神像を昌泰四年菅公決つて龍運をなす時

慕ひこがれ物とけ新お至り西の方と眺めひ意慕れく龍山一ゆふ

半止と人々は清整一と感感とてまふ訓とくつとと龍山とつふ

文選ふる龍山と訓と 唐詩の註ふ夫足龍あるを足より又いふ龍も

訓と丞相既小龍不みく龍とあふ后上天神通自在ありま一忽然也

一とせふ小龍向ありて屋上の梅樹松よりく自号像と一教小龍訓

とあひは地ふとめ神息女の夢と海を懸先形見や一ゆふ其より端人

奇特のこひを形一尊設法くは遠不近郷二十四五村生土神也申ふ先

毎年系式意に於る年神祭の座席坂幸ひ村を別ま一ふ成て小祠依

營て例系式勢半小ありぬは幸社小淀小者之洲中振出にゆふ村小龍を

神像と南山坂動きたまふとゆふ事瑞あねとくふ張一まゆ慶長の兵大

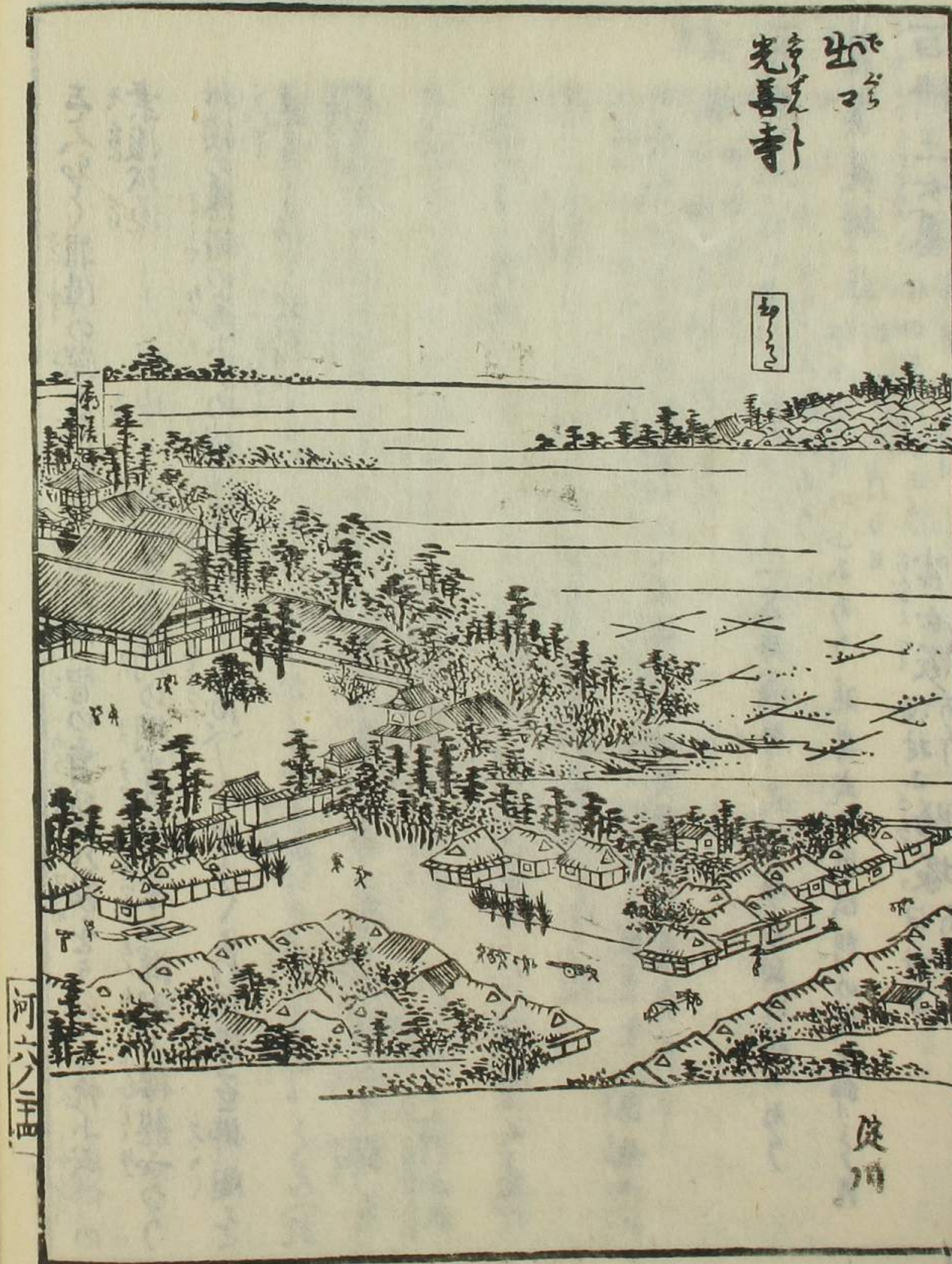
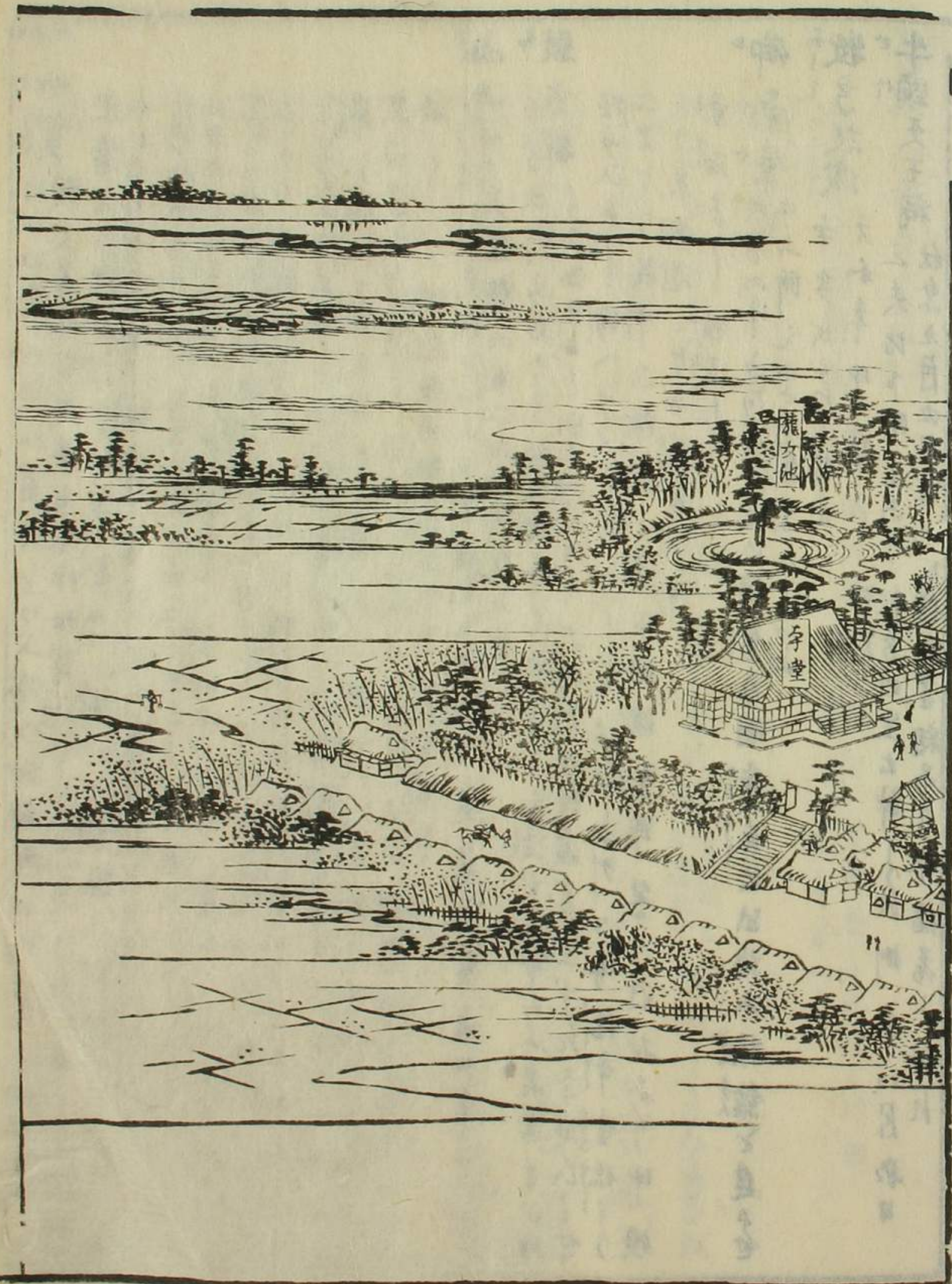
ふも社檀を燒去らぬゆふも神像甚か一依之諸人龍山天満宮社と

龍山天満宮 菅公須記云 社傳云 神像を昌泰四年菅公決つて龍運をなす時

龍山天満宮 真言宗

龍山天満宮 真言宗

龍山天満宮 真言宗



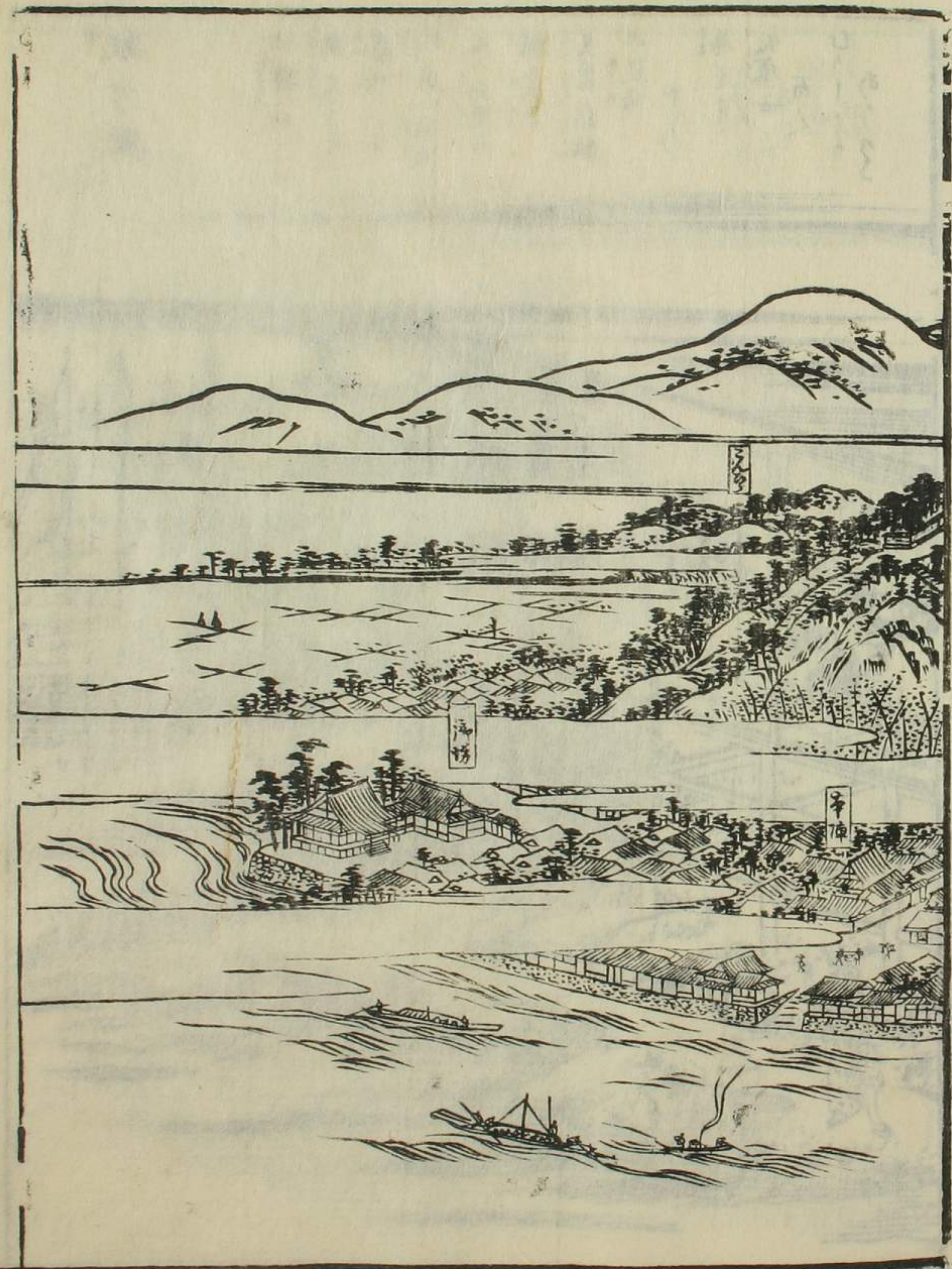
其の客を遣はし惠澤小興くわさる是三笠山春日神にて飛去り
其の負親二年の春醍醐の聖寶を降る来を慧をたか伽藍
建營し且くあり萬年通變の細法を造るを則て不
萬年寺を建し密法の精舎と形し又負親十四年小天下度
流りて國民多く變ふ其時 法和帝半頭天王の神璽を賜
て度平金成はふあり新しむ今此天王社これあり其より以前
弘法大師高野山修業の時はふあり業作佛安しと國
平安は獲りてあり又厥后 一條院浄寧長保二年小諫議大文齊
光の子出家し寂照法作を建し惠心信都の上皇より惠公
台宗の同門二十七條を造りて唐土の智禮法作小使明せん
寂照小持し先渡唐なりし明州の津小至り南湖の智禮小陽
て同論し其後此地小於く重病孤受く大苦悩を此時當ふの
大悲小平念成所ふ其救世親者松上小立む終ひ盡業の証方と

一河六二二六

授けぬ小即これ瓜服をわを忽平念して帰朝を其靈方當
寺小傳來しと諸人小施し今の混元丹これあり又長松を
寺前にありし今時まじく萎々として霜雪小冒され
む千葉不朽の色を現きも亦靈場の奇物ととるこりり
東本願寺浄土坊 自願成預生坊とあり

本尊阿彌陀佛 長三尺五寸許
此寺古蓮如上人八十一歳の時出産の季子法下推大傍都實從の宗
基なり願真寺と号し幼名公九九丸と云ふ天正年中兵火を蒙
教如上人再建すし佛を旧地を南に遷す小実從上人の古徳あり
願真寺と系傳小あり為流なり
本願寺浄土坊 教如上人の対自居浄坊と形ふ

本尊阿彌陀佛 安河保の
鷹塚山 牧方の東にあり孤峯獨秀ふし河橋の山川悉く
變を驚しほく再埋葬す
はゆ小名と云ふ
谷 鷹塚山の傍ふあり傳云履中天皇浄時此所小宮庫を
造り寶器及び石巻の書籍と悉く由り古蹟と云ふ



萬年寺
牧方

牛頭山



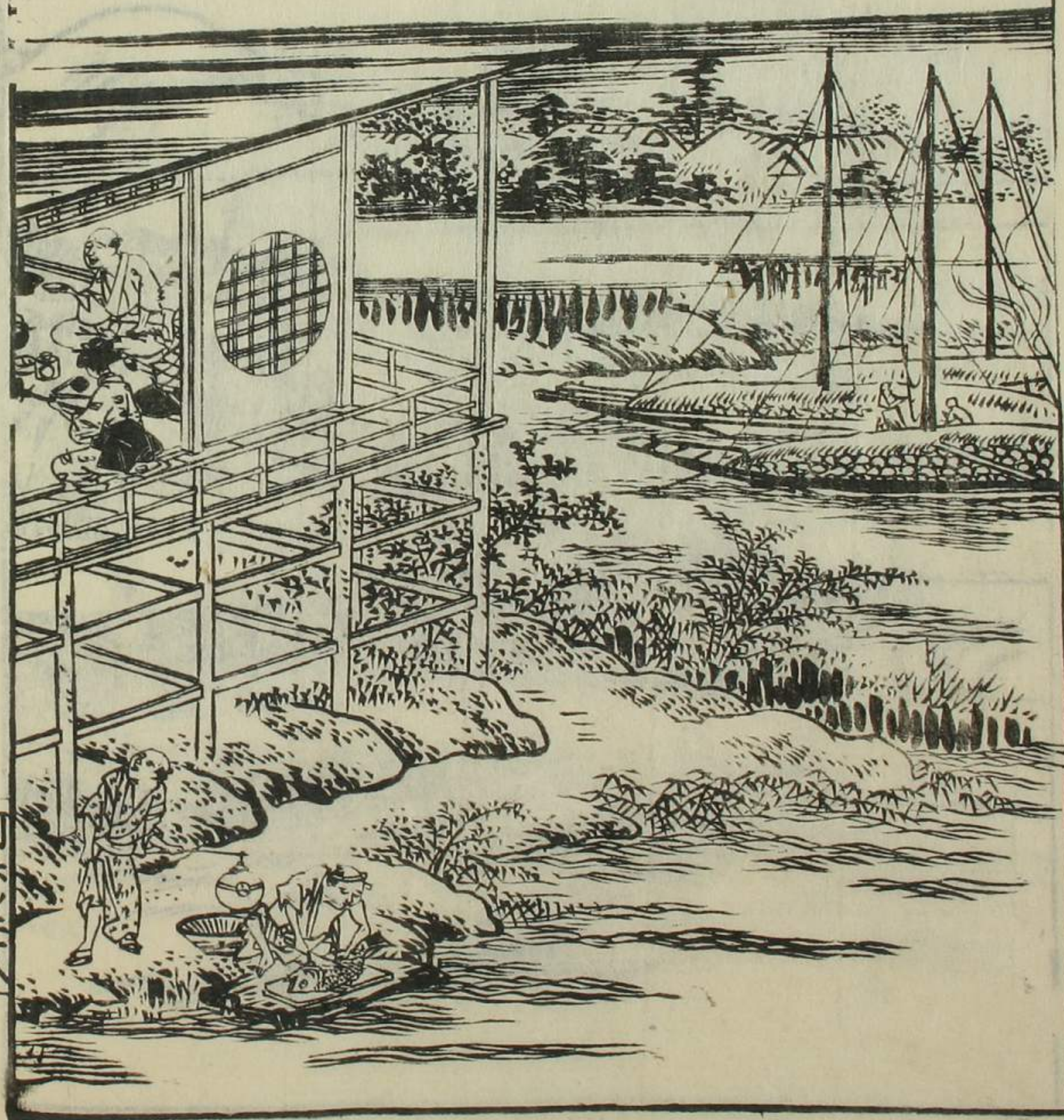
河六三十一



ちり花の
 地蔵や
 寺のて
 水の水
 龜天

牧方驛

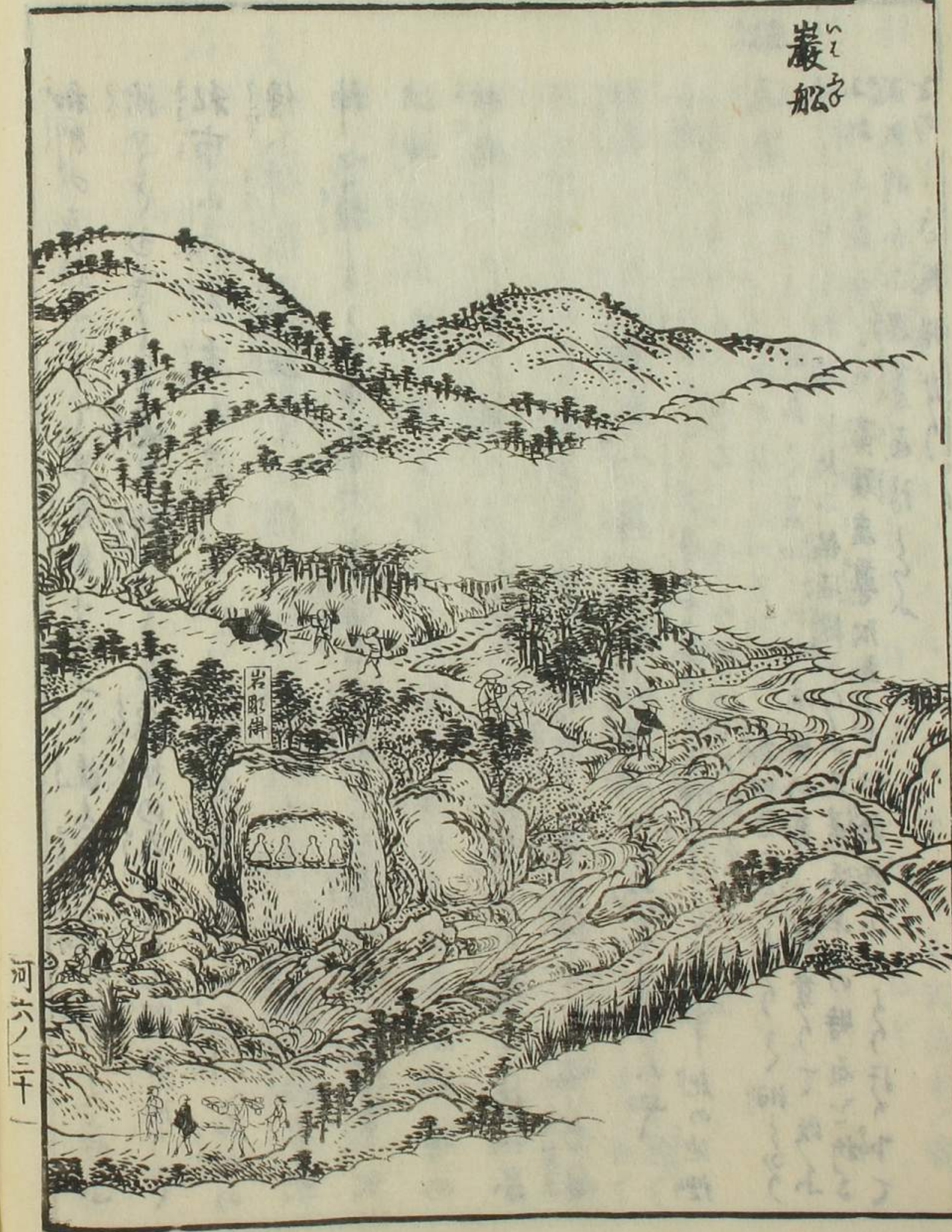
は驛と
 車久し
 系昨
 浪速(通船)
 又い西國の
 諸侯方
 実東系勃
 の沢塔
 馬百足
 飯盛女
 百人
 ひりりり
 ありりり



河内八十八



い
い
巖
船



河六ノ三十一

鮎返滝



妙見山

明星村の東にあり

妙見神祠

妙見山あり

任右神祠

星田村の中あり

星田寺

社頭あり

八幡宮

石清水村あり

旗立松

八幡宮の社前の老松あり

星田尊蹟

河内志田星田村あり

星石

三ヶ所あり

崇金女故址

度々村あり

妙見山あり

妙見山あり

妙見山あり

星田
妙見



河六九二

明光寺

打上村小あり、天照山と号し、大金佛宗
佐々木蓮寺小属也

奉尊阿弥陀佛

去日の地長を尺八寸又境内小十二坪の石塔あり
又一の寺あり弘治三年丁巳九月可信と傳ふ

石寶殿

當よりそ所許興小あり、按ずる石塔の表に
其の地六貫目あり、中、白骨を蔵むる石塔あり

山野

其の地を盜難に爲れて、其地の主が、
山野を盗難に爲れて、其地の主が、

八十塚

日村小あり、由縁不詳

尊掛松

石塔水八幡あり、天照阿弥陀の中、
石塔水八幡あり、天照阿弥陀の中、

見山

獅子窟寺、真言律宗、私市村の山、
獅子窟寺、真言律宗、私市村の山、

新後

静の法親王、獅子の岩を不託と傳ふ折小
静の法親王、獅子の岩を不託と傳ふ折小

奉尊

薬師佛、行基の地、像長三尺許、
薬師佛、行基の地、像長三尺許、

奉尊

薬師佛、行基の地、像長三尺許、
薬師佛、行基の地、像長三尺許、

奉尊

薬師佛、行基の地、像長三尺許、
薬師佛、行基の地、像長三尺許、

奉尊

薬師佛、行基の地、像長三尺許、
薬師佛、行基の地、像長三尺許、

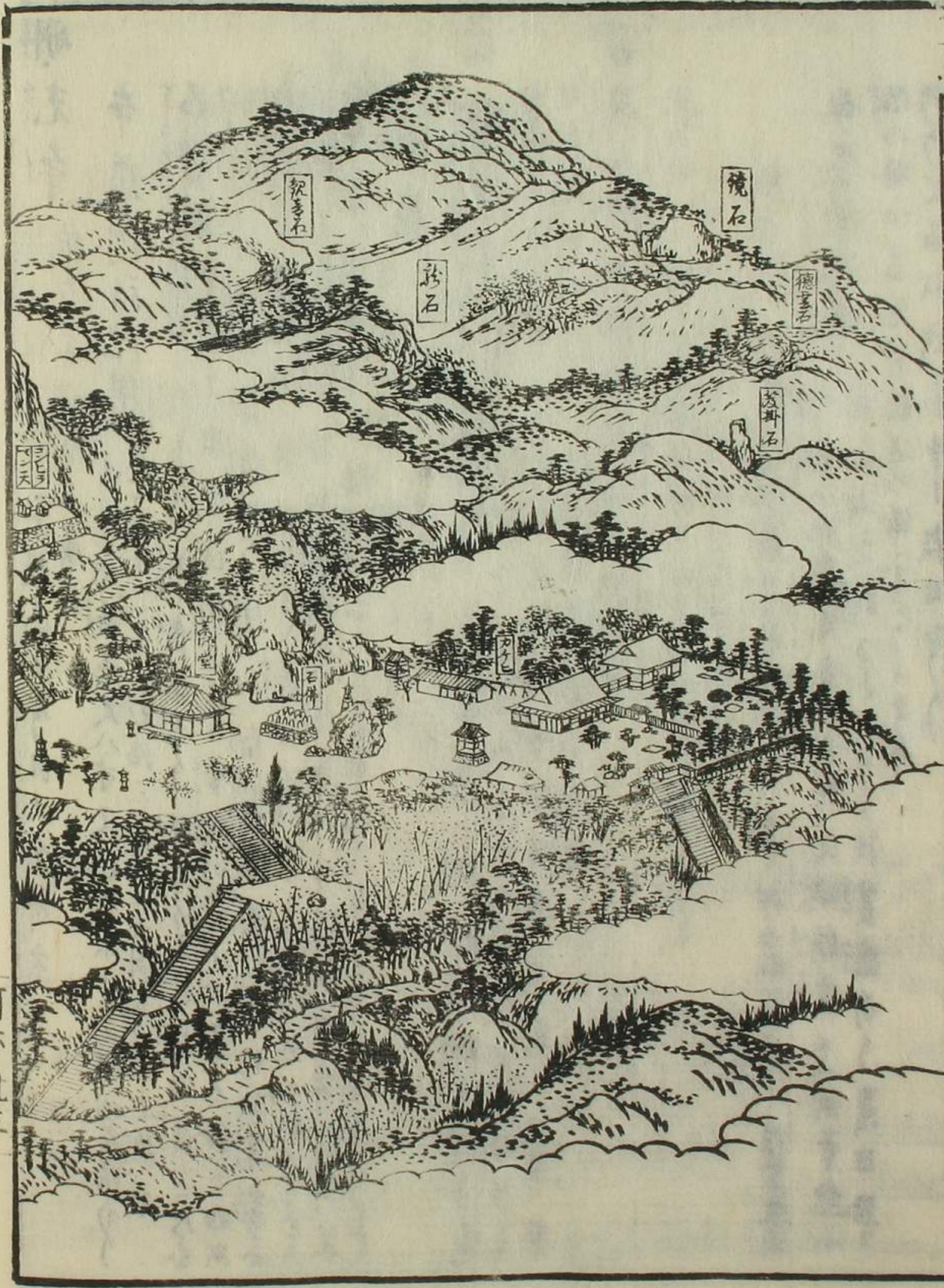
奉尊

薬師佛、行基の地、像長三尺許、
薬師佛、行基の地、像長三尺許、

奉尊

薬師佛、行基の地、像長三尺許、
薬師佛、行基の地、像長三尺許、

獅子窟
寺



獅子窟寺
坂路

下の坂は村より
本堂まで
八町の坂あり



獅子窟 本堂の北あり中堂金剛殿 巖窟を移し
 龜山院 本堂より坂路を町半許北あり 天王廟 院記小
 其報恩の寺 小塚に建てるその形 龜山院 南禅寺
 龜山の上方に大塚あり 寺を浄金剛院 南禅寺
 金剛寺の三所 小塚に金剛寺あり
 紀州高野山 金剛峯寺あり
 皇后墓 帝陵の側あり 龜山寺 北堂に形するを
 鎮守 八幡文 毎村天 金毘羅持現
 龍石 中堂の奥三町あり 辨天石 祠の裡
 奥院を移し
 戒根泉 窟の中 天福石 一名 黒石 坂路の
 玲瓏石 一名 親石 奥院の 無底洞 窟の本の
 上あり
 牛卧石 二王門の趾 清涼壇 方丈の上あり
 虎嘯石 方丈の奥 寶篋印塔 當山の中心
 當山の記 日寺の主山 蒼翠 盤礴 小く 其躰 狝子
 地上 小蹠 小背 洞窟 深遠 狝子 狝子の 狝子

吼聲こゑ一ひと大おほ震ふるふ小こ髣髴ふたふたなり佛ぶつ殿でんを山さん腹はらふトとく天あま河がはと臨のぞみ東あづま
の方あたに系けい作さくを遙とほふして西にしの方あた根ね城じやうを瞰みむ山さんの足あし系けい画が牒だ公こう廟ぼを
のめ一ひと奇き巖がん性せい石せき山さん巔せん小こ峰ほうへく深ふか壑くつ小こ構かまふ茶ちや松しょう脩しゆ竹ちやく鬱うつ密みつ也や
して森もり沈しんなり佛ぶつ聖せいの宅たくさう所ところ小こあらずんを豈いかでこの絶つと勝しょうありんや
其その来きた由よし孤こ考かうするに昔むかし在あり後のち小こ角かく全ぜん剛こう山さん小こ居いるめ好いくとい
遙とほふ山さん頭かぶ五ご彩さいの雲うん氣きを公こう見みる是こゝに靈れい區く之中ちゆう遙とほ
揚あと飛としてあふ小こ房ぼうを榛しん葦あしに披ひた巖がん址しを夷ひらげ芽めと縛むすく
一日いちにち窟くつ中ちゆうに宴えん坐ざして首くび瓜うり橋はしを親おん見みる小こ是こゝ地ち変へんじて淨じやう瑠る
璃り世界せかいと形かたちる爾なんぢ後のち山さんを拈にじて藥やく師し如に來きたの淨じやう去きよとい
聖せい武ぶ帝てい北きた沙さ宇う小こ遠とほんご佛ぶつ正せい行ぎやう基き勅しやく形かたち瓜うり義ぎく梵ぼん刹しやくと刻きやく
宸しん且かつの立た基き小こ准じゆんして四し隅ぐの崎さき密みつを四し基きと標ひらけ山さんと名なを
中ちゆう基きとい復また令しめすとい金こん剛こう般ぱん若じやく窟くつとい小こ窟くつ前ぜん小こ度た堂だう投たう
回かい瓜うり構かまふ朱しゆ甍めい畫が棟どう巖がん密みつを照てう耀ぎやくと又また經きやう藏ざう淨じやう樓ろう食じやく堂だう佛ぶつ寮りやく

暨あび二に層そうの塔たつ婆ば鎮ちん守しゆ北きた神しん祠じ辨べん財さい天てん祠じ等とう以い建けんく堂だうの左ひだり小こ列りやく
又また一ひと堂だうあり中ちゆう小こ聖せい德とく王わう復また小こ角かく行ぎやう基きの三さん像ざうと安あんん外ほか小こ二に金こん剛こうの口くち
設たてく山さん場ぢやう四し至しの結けつ界かい小こ各かく窠そ窠そ印いん塔たつ瓜うり造ぞう立たてく尚なほ山さんの鎮ちんとい山さん
間まみ觀くわん者しや巖がん德とく雲うん石せき大だい黒くろ石せき掛か後のち石せき鏡きやう石せき龍りゆう窟くつ等とうの靈れい蹟せきあり其その
僧そう房ぼう都とく十二じふに院いん其その後のち一ひと百ひやく有あり餘あま衆しゆを應おほく天てん長ちやう中ちゆう弘こう法ぽう大だい作さく
け山さんに窟くつ一ひと壇だん瓜うり立たてく佛ぶつ眼がん明めい妃ひの法ぽうと修しゆれ三さん昧まい成じやう統とうの時とき七しち曜ぎやう
降くだりて山林さんりんに照てう耀ぎやくと又また表あらわして獅し子し寶ぼう冠くわん佛ぶつ母ぼ尊そん乃すなはち居い所ところ小
勿なく者もの神しん祠じと云いふ天てん河がはの左ひだり右みぎ小こ散さん立たて抑おさめ神しん龜き天てん平へいより文ぶん應おほ
弘こう長ちやう小こ至しく既すで小こ五ご百ひやく有あり餘あま衆しゆを應おほく其その間ま茶ちや月げつ綿めん遊ゆうありて棟どう宇う
傾かた圮びを適たてく龜き山さん上じやう皇わう玉ぎよく體たい不ふ豫よなりこれ瓜うり熊くま野や權けん現げん小こ禱たうる持ぢ現げん
夢ゆめ小こ告つがく曰いは聖せい躬こうの安あん康かう以い保たもんと形かたちは別べつ獅し子し窟くつの藥やく作さく佛ぶつ小こ折せつ
登のぼり於お是こゝ上じやう皇わう車しや駕がとめぐして除ぞく幸きやうの由よし至し誠じやう祈いのち信しんなり
いよご幾いく形かたちなりして皇わう疾じやく頓とん瘳しゆを敵てき情じやうたひ小こ歡かんなり即すなはち育よく司し小

命じて重く殿廢を興じ殿堂門廡煥然として一新に山下二里許小
行宮の故基あり今呼ぶ院田里親善寺と云ふ又山右崙崖の下に
古石塔婆二基有り荒草涼煙の中に屹立其其一皇陵より其一
右后墓之版石二百餘の星霜孤歷く文福慶長の騷擾小中て兵の
為小毀され金碧の區變りて瓦礫の場やある寺存も亦あらくは
官府小隊は嗚呼素田碧海須臾不改まゆ中て半を我山の河門
月潭は寺記と識して當山に藏す

親善寺

私市村小あり龜王山と號し一名千手寺

本尊如意輪觀音

行基の地むらる大慶あり諸堂觀音
龜山上皇の神牌本堂小安は地字松院田と云ふ軒子松子の
縁起不見くゆめく龜山上皇熊野権現の畫あり
千手寺也号れ故小院田の号あり後二條院の法号嘉元
二年の事勅ふりて本堂再興一場舎ましくを修り
新鎮も亦あり森村小あり後通山と号れ之念佛宗

本尊阿彌陀佛

後世今の宗名

親善堂

千手大悲安んず對面の他殿式尺七寸

嬰兒山

寺村の東にあり名區之山中小觀音母谷嗣石号あり孝小孫王
夫本 樹あり歳旱の時孤孤孺るに驗あり故小龍王と云ふ

佛示川

水原佛示村の山中より流る寺村莊子佛を

水室古蹟

佛示村板村寺延壽村の三邑あり今まはるくは廢れ天長
八年八月丙午國水室三寺に火燒く供津廟之を時小

私郡古城

私郡村板村寺延壽村の三邑あり今まはるくは廢れ天長
八年八月丙午國水室三寺に火燒く供津廟之を時小

光通寺

私郡村小あり夏寺と云ふ号れ

本尊如意輪觀音

尺五寸用基別率和尚
南朝後村上院の勅額所あり

長寶寺

本尊十一面觀音
長式尺

梅塚

本塚
本由極不詳

中塚

本塚
本由極不詳



河六廿七

元寺 倉治村の東五町 許小あり 一名倉治 許小あり 五丈

病者あり 俗に眼病比者 俗に眼病比者 俗に眼病比者

大岩あり 長五丈八尺 山頂 尾山 三丈許 許小あり 許小あり

交野山 倉治村 上方の 許小あり 許小あり 許小あり

機物神祠 倉治村 許小あり 許小あり 許小あり

觀音寺 村野 小あり 天野山と号し 奉正親王

津田古城 津田村 小あり 天正年中 廢

三宮 津田村 許小あり 奉正親王 奉正親王

新見池 津田村 許小あり 奉正親王 奉正親王

穂谷川 水原 穂谷川 許小あり 許小あり 許小あり

尊延寺 又五大 奉安 奉安 奉安 奉安

杉妙泉 村小あり 其泉 清冽 許小あり 許小あり

明尾寺 村小あり 真言宗 奉正親王 奉正親王

奉尊十一面觀音 長武尺 護摩堂 奉正親王

河内文首始祖博士王仁墓 石標 王仁之墓 許小あり

國見山 坂の東にあり 許小あり 許小あり 許小あり

小山墓 田村小あり 正一位 田口氏と稱し 仁明天皇の外祖母

安樂寺 田村にあり 奉正親王 奉正親王 奉正親王

山田池 田村小あり 大池 招提村小三箇所あり



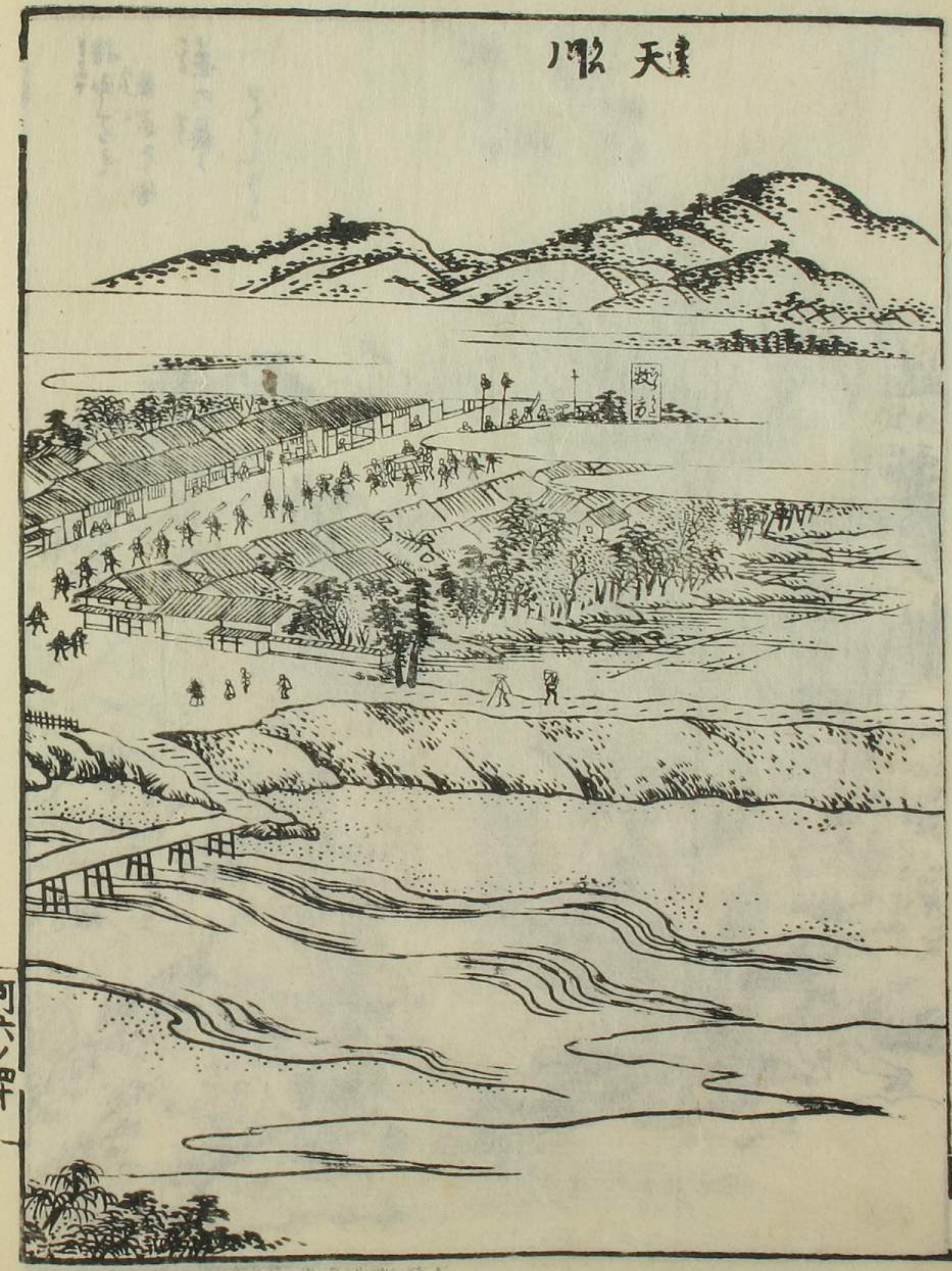
持あつるま
 長みちや
 妻の眞
 ころえらる
 近
 根芥
 大井



糶
 取
 糶
 暖氣
 苗代
 小池
 舟池
 いろくの
 近まる
 意これ
 ころく
 きでい
 など



新吉
 かしらりし
 こゝろ 聖堂
 まま あり
 渡の川 此
 月 故 三 條
 う 邦
 在 通 清 中 將 公 衛
 彦 何
 三 小 新 町 寺 乃
 鳥 下 乃
 尾 尾
 大 江 丸



天 皇

河 六 甲

新後撰 穀ぬるも新く人々きみりうすあうさけこの一橋中居

續十 あゆみりうの世にその一橋中居とてあそびをたてし

新千 物じいおのこの一橋中居とてあそびをたてし

日 かりそらうこの一橋中居とてあそびをたてし

新續古 若保れりこの一橋中居とてあそびをたてし

鳥立原 交野の中ふあり土人

新古今 津將とてこの一橋中居とてあそびをたてし

百重原 交野原の一名あり

車塚 蘇我村小あり

和田寺 蘇我村小あり

本尊薬師佛 聖徳太子作

尚寺因基と弘法之作

在せし大伴ら小遷一終ふ其後貞觀年中 文徳天皇弟一

皇子 清和天皇此清兄惟喬親王と小遷禰の時二足の程

院小飛入つて此を即これ狐塚小築く小祠を建る今中願寺

これあり其後唐永の頃唐燕によりて捕黨和田新發意源

秀再興に因茲和田寺を改む什寶小大伴貞蹟の兩界曼荼羅

あり寺前に津將櫻あり初の樹を枯朽して植絶り今と我園へ

百済王靈社 中宮村小あり

傳延暦二年の冬 桓成天皇交野小遷禰

行宮所小供奉に其外利善 武鏡 元徳 玄鏡 明直 等

官爵 叙賜し又西宮記云 百濟王 交野の地 授けし其

地あり 天長六年十二月 遷り

中宮池 中宮村小あり

宇久茶塚 日村小あり 由縁

長者故居 甲斐田村小あり 俗傳云む

河伯の鬻とてこれを長者の一人とて

其娘猶成長く

其母戒し 先て汝ら父

新由娘は長者の妻小... 物いも... 父をかざり人極まると... 物と

郊

延暦四年十一月壬寅天神交野の柏原に祀りて宿禰... 賽とあり同六年十一月甲寅大納言藤原繼繩筑... 天神交野小祀高紹天皇と云い... 十月大納言藤原良相を交野柏原に遣して是上帝... 郊祀を後田原天皇も亦さ小祀享に壇上の古蹟小老... 杉あり今交野の一本杉と云

波

波院古蹟村小あり... 親若孤安一真言宗... 駒止松... 碑銘

寛文元年十月山州波城主永井信別尚政の舍弟同修實寺家... 杉井吉通建之銘を向陽林に撰序文畧之

於戲波激 境近王畿
翠華雲靡 白櫻雪飛
吟以勸醉 遊而忘歸
在昔為盛 中葉式微
烟籠野水 月鎖村扉
遺蹤復旧 花亦芳菲
寛文元年辛丑十一月

主後日記 貫之土佐の任をての... 君意く... 其宮へ... 小あや... 其宮へ

之時又至矣夫東大夫一且相議曰升相
之頃置巨杜以過不修乎哉且其基礎今
固豈博其可募良工始畢其西室置相
在焉徒博募良工始畢其西室置相
長七手土本之事始畢其西室置相
公之圭蓋大府之事始畢其西室置相
歲九千斛以杜其祠以嘗尊崇之小祝
食焉豈盛往昔之祠以嘗尊崇之小祝
之案盛往昔之祠以嘗尊崇之小祝
廣壤九邨為其杜隱也歷年之未得亦
寬政八年春本祠祝吾族子本親謀於九
邨之農氏興補廢墟尊之顯亦不之可
復舊緒未幾及往相之祠亦不之可
也先是附庸大夫相之祠亦不之可
今之東北則并之鎮何有分於古令乎
昔之東則并之鎮何有分於古令乎
是外浪華者而修之今之祠亦不之可
可外浪華者而修之今之祠亦不之可
意在斯矣儀又成唯以九邨之強不祥之
意

河六ノ四十五

修飾之費非少故至今且而後始有之
嗚呼夫一隱常少乃世人之多無知有
常多顯之時常少乃世人之多無知有
為故今此記也神之靈能祭不麻旁鄰
之有戴其取光春秋祭祀不懈怠則
之茂戴其取光春秋祭祀不懈怠則
之薦田圃之供廢猶不降福乎哉銘曰
不降福乎哉銘曰
一宮神祠人之所知名與松喬德身竹
隱亦不温顯亦益怡龍維伏雷霆維
雨能降穀水不齧涯既鎮浪華永
京師經營不怠補修必時記以錫石
之貽

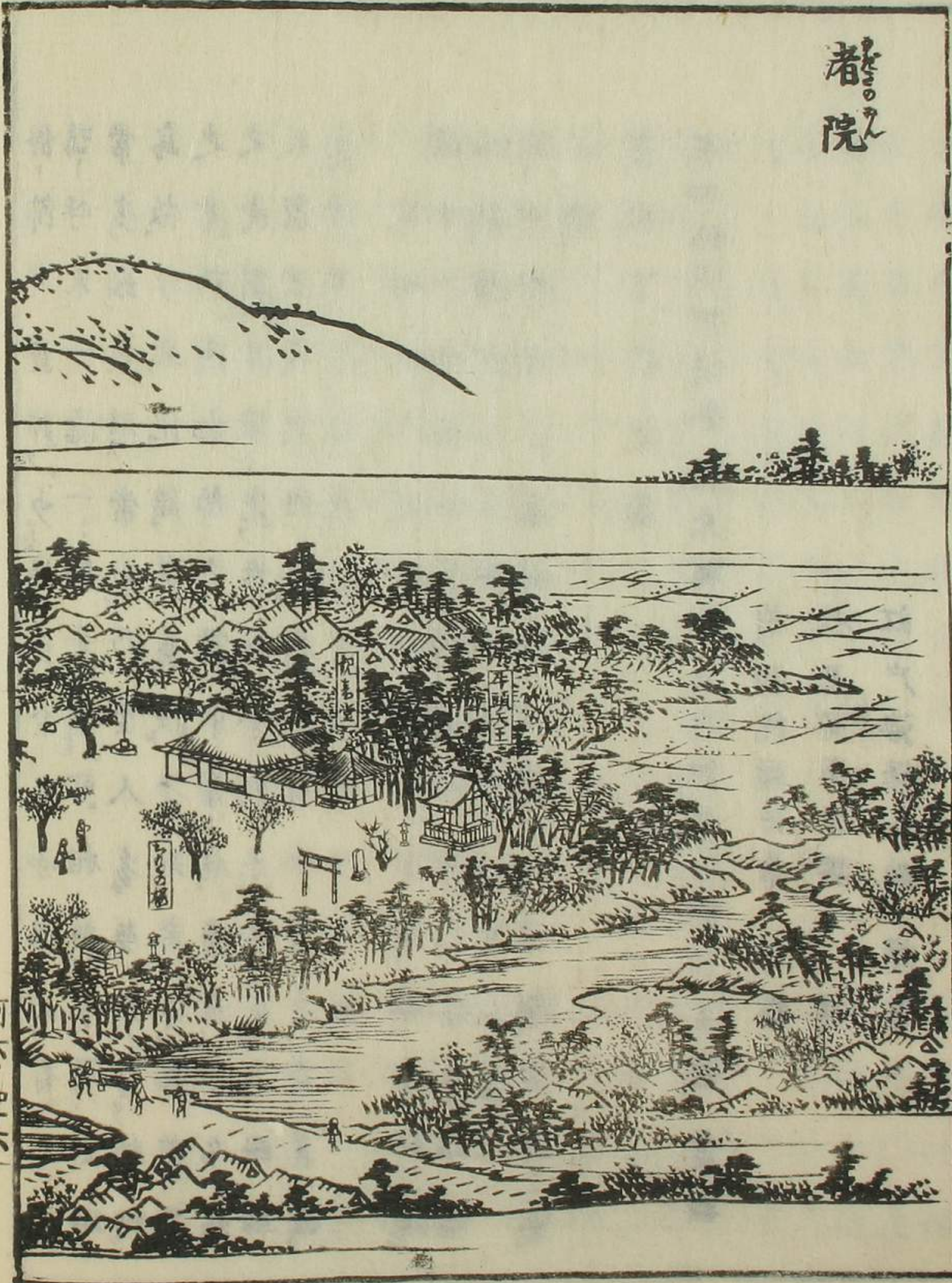
寬政丁巳之春

從四位下行式部權大輔兼大內記管原朝臣長親兼

前祠祝岡田奉拜撰
伏見岡田宗興建
江戶海保奉鶴護書

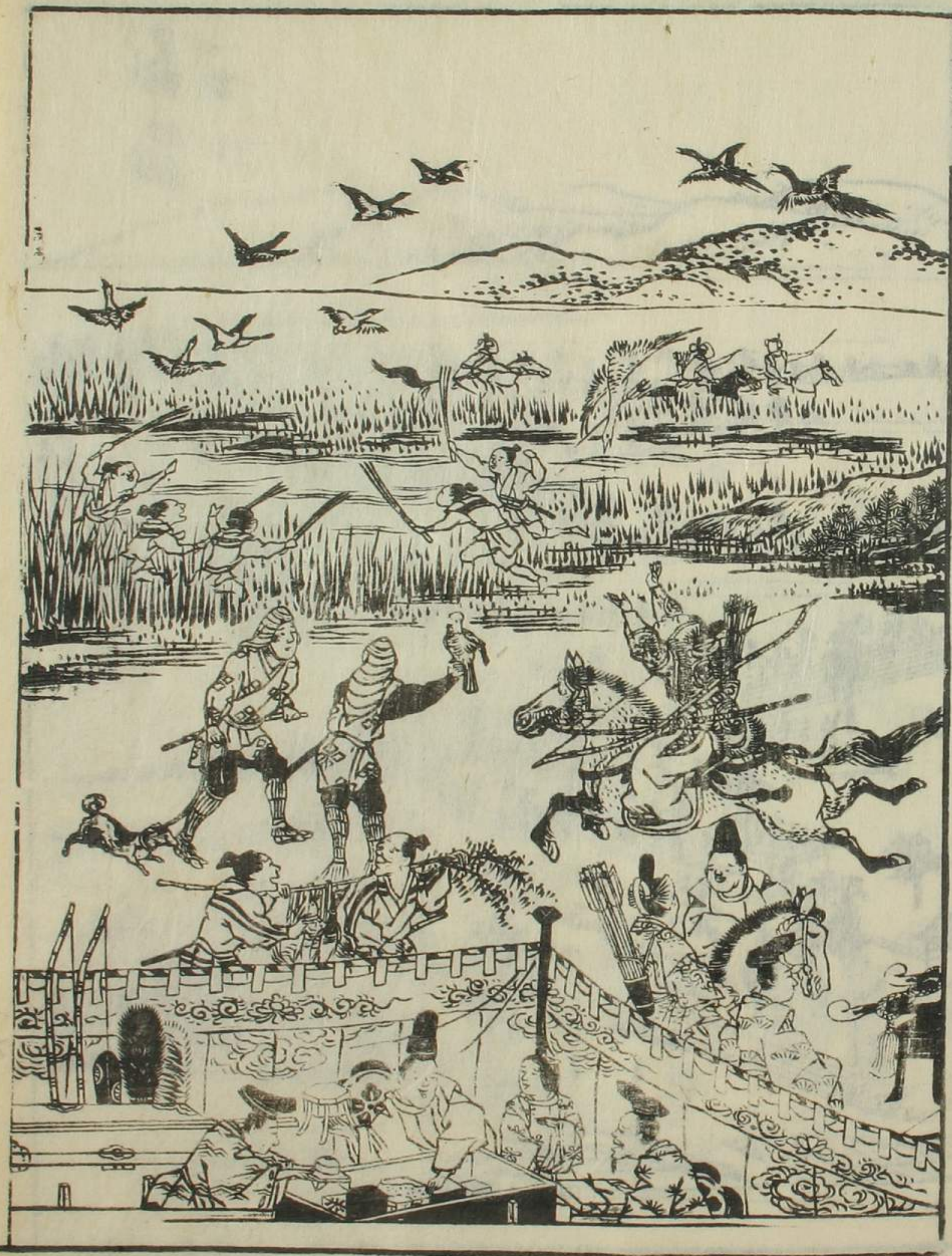


弘善寺
 切の母分所
 法橋の橋いく
 ちえてや
 りん
 法橋定國



静院

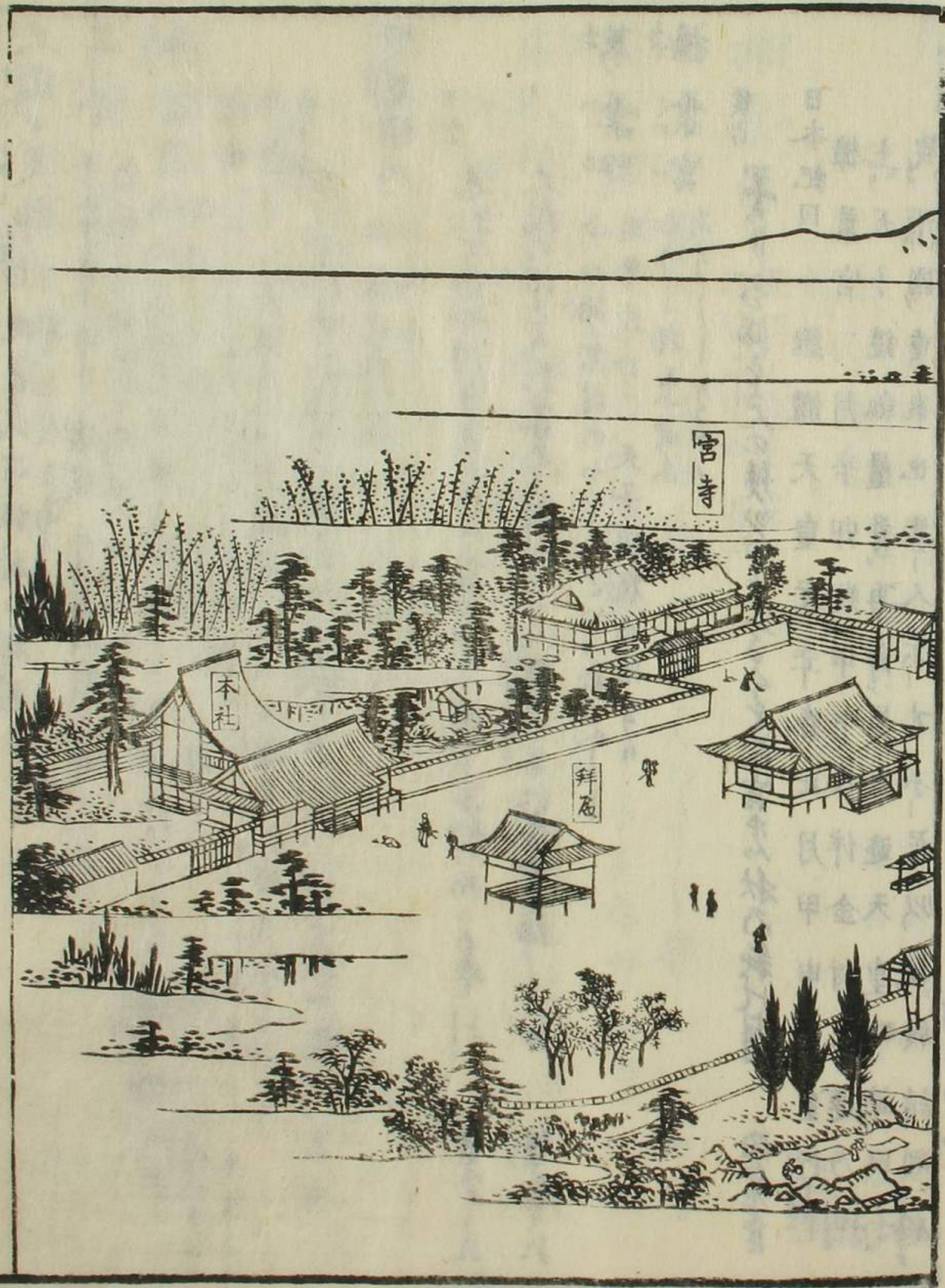
河六ノ里六



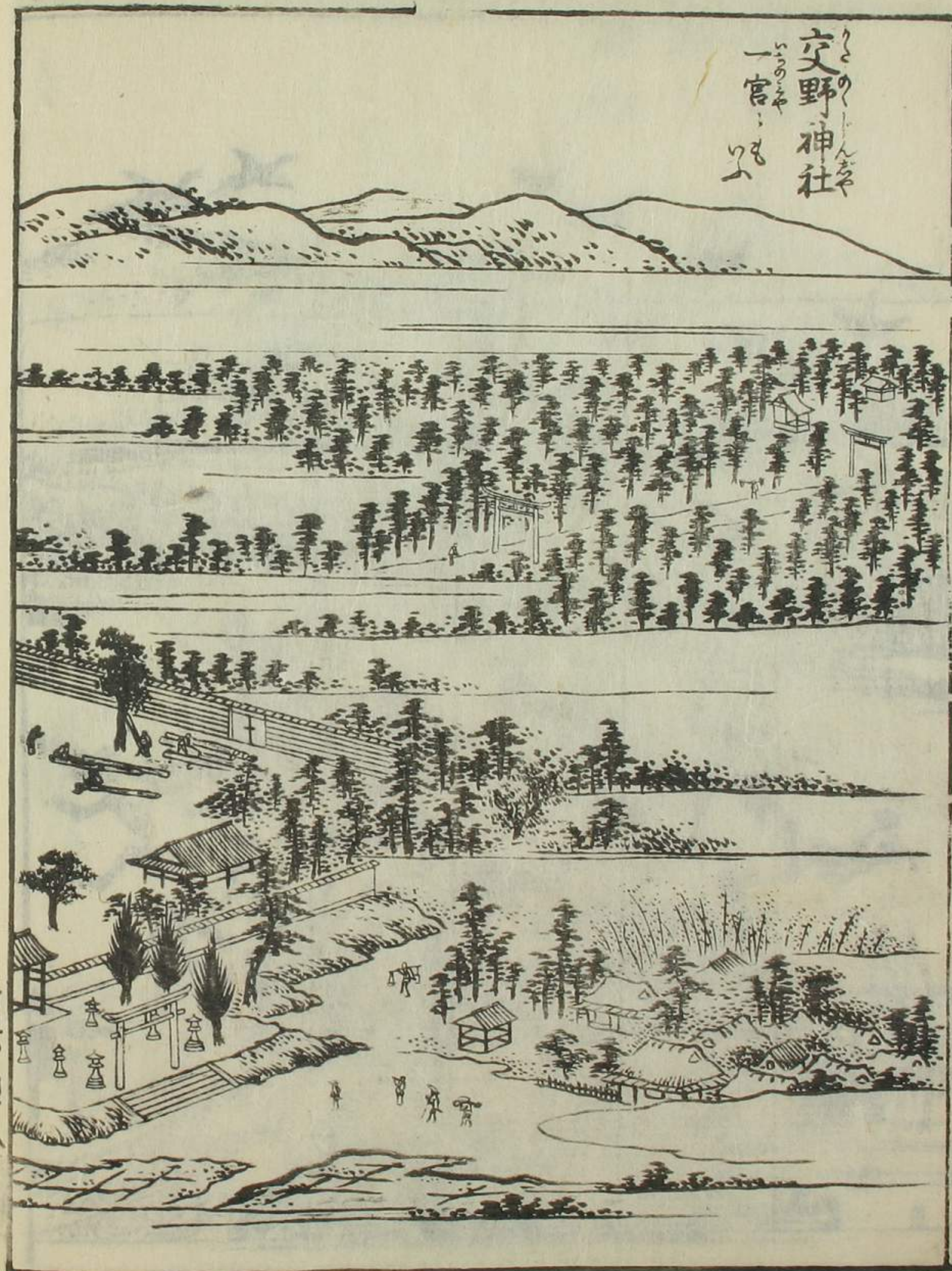
惟親王
高王



河六四七



交野神社
一宮
八



河六四八

久須美神社 延喜式出坂村の屬邑

二宮 舟橋村小あり 近隣ニケ村の生土神と云

舟橋川 水原荒坂の南より流る 招提村小至り 洞ヶ瀬 弘聖と

霖雨の時ふより 舟橋川より大橋のわき 舟橋小

舟橋川 舟橋川の一宮 光佐

大橋のほりに 舟橋川のふり 大橋の上 舟橋のわき 舟橋

葛葉野 今の楠系村のわき 舟橋のわき 舟橋

舟橋 舟橋のわき 舟橋のわき 舟橋のわき 舟橋

舟橋 舟橋のわき 舟橋のわき 舟橋のわき 舟橋

舟橋 舟橋のわき 舟橋のわき 舟橋のわき 舟橋

舟橋 舟橋のわき 舟橋のわき 舟橋のわき 舟橋

舟橋 舟橋のわき 舟橋のわき 舟橋のわき 舟橋

擇賢者寡人不敢當大伴固男諸大

大伴固男諸大 大伴固男諸大 大伴固男諸大

楠葉渡口 川幅六町許あり

寒さうに 妻布子着く 守 延竹

釋迦堂 楠系村小あり 一名久能園院 本寺之係 釋迦併

藤原継繩 別荘 楠系村小あり 古跡の字 弘今 藤原を地名に

彌勒寺趾 楠系村小あり 一名足立山 別名 彌勒寺 古記小あり

告ゆふより 道徳の道 徳の道 徳の道 徳の道 徳の道

今男ふも けしきあり 後世に 徳の道 徳の道 徳の道

都名所 圖會 藤原村の界にあり 山名 彌勒寺 古記小あり

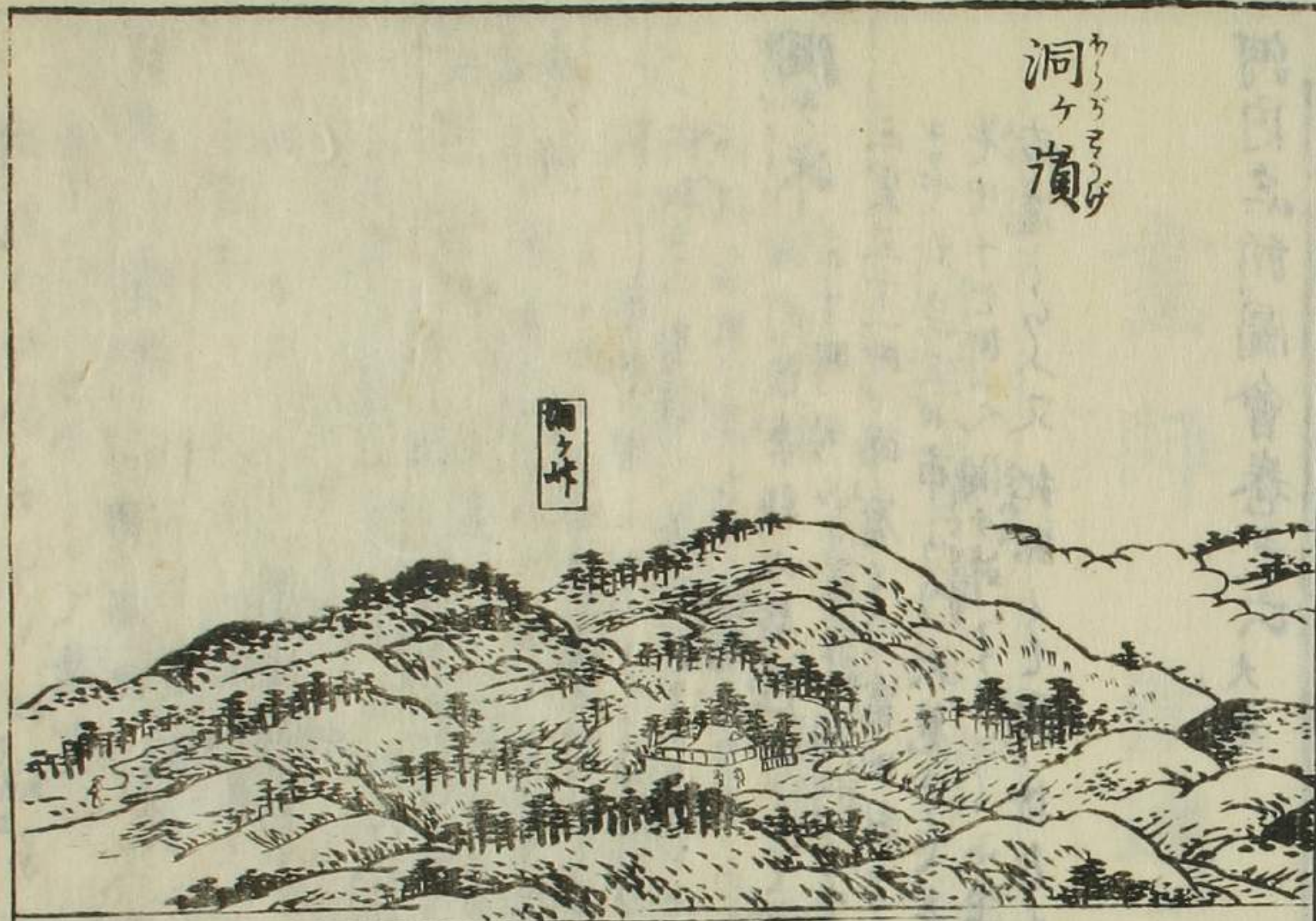
懸松 舟橋村小あり 藤原村の界にあり 山名 彌勒寺 古記小あり

百濟王敬福 舟橋村小あり 藤原村の界にあり 山名 彌勒寺 古記小あり

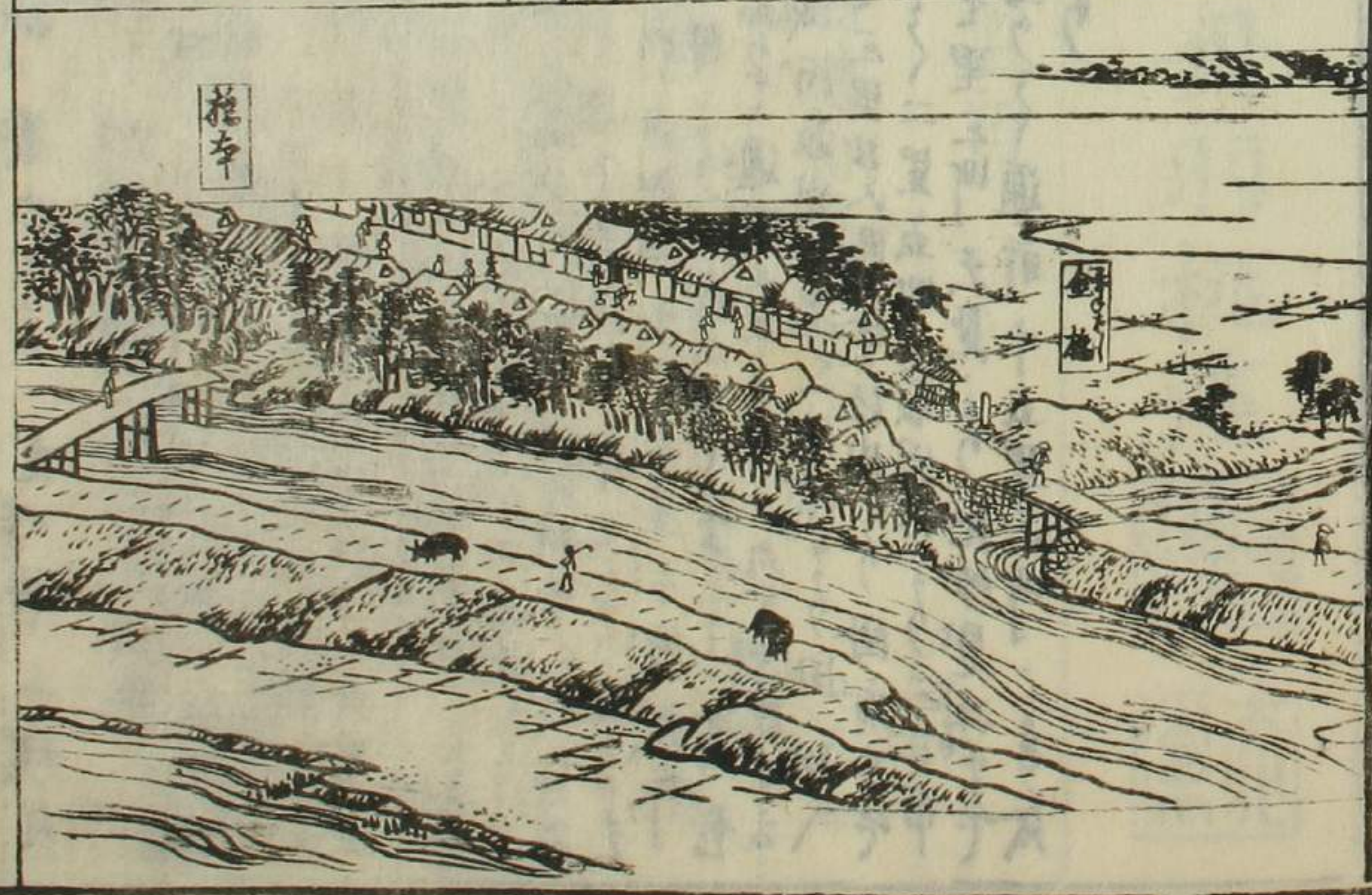
政事 舟橋村小あり 藤原村の界にあり 山名 彌勒寺 古記小あり

洞ヶ嶺

洞ヶ嶺



橋本



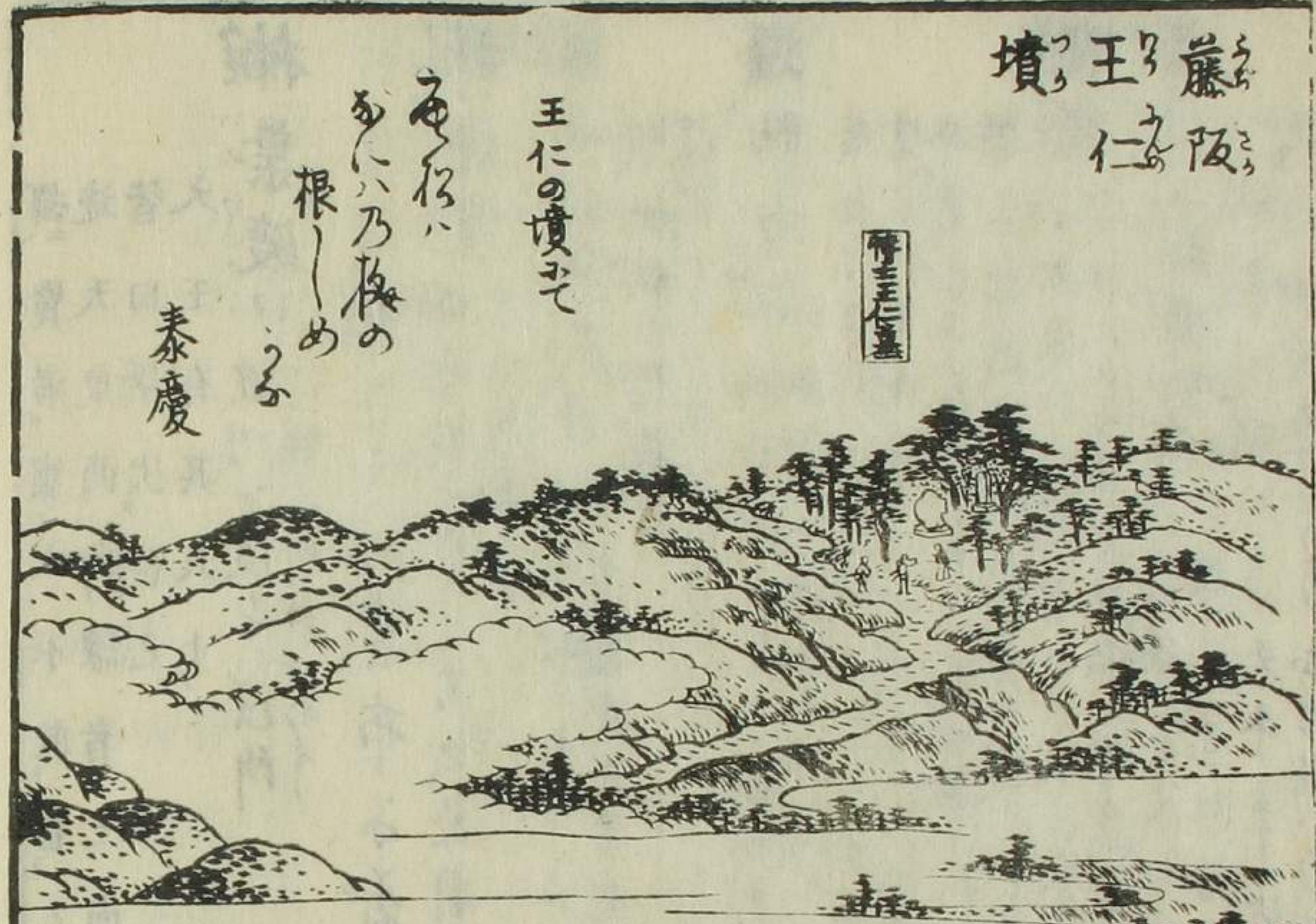
墳王藤
仁之阪

藤王墳

王仁の墳

藤王の
根

泰慶



河六ノ五十

河内名所圖會卷之六 大尾

野金の如ふをこゝに始ふ神護のこゝ。先刑部小使
 年六十九ふして薨む
 百濟王慶仲 郡小樓 武冠守小成りて其任満く
 小渡にあり其所小暴人有て証者人を率いて
 直小渡に暴簡を捕へ戦うる年殺十箇其徒思わ
 人の害公救ふ年多く四のさし
 文黒磨 郡小樓 天平十九年 主税頭小任
 金橋 捕兼の北ふあり山列橋本の南北端あり
 仁和も一番村七番村考へ守口の驛より仕居小至る
 河内 支國の界より金橋よりこゝ小至りて通計六里
 同ヶ作 城列續喜郡の郡内ありて城河支國の界
 三里三十一町 郡府より富田村より二里五町中
 寺で武里三日市より天見寺を三里三町天見より
 港里十七町 河内より天見寺より小至りて通計
 古道より又紀路とも歸ゆなり

河内名所圖會卷之六 大尾

畫師 浪速 丹羽桃溪



竹離寫先生著述品目

都名所圖會 <small>竹原春朝畫</small>	六卷	拾遺都名所圖會 <small>同画</small>	五卷
大和名所圖會 <small>同画</small>	七卷	河内名所圖會 <small>丹羽桃溪画</small>	六卷
和泉名所圖會 <small>同画</small>	四卷	攝津名所圖會 <small>諸名家画</small>	十卷
都古跡名所圖會 <small>諸名家画</small>	三卷	都林泉名所圖會 <small>諸名家画</small>	六卷
京の水 <small>下河邊持水画</small>	圖二面 書卷	東海道名所圖會 <small>諸名家画</small>	六卷
源平盛衰記圖會 <small>諸名家画</small>	六卷	保元平治鬪圖會 <small>法橋中和画</small>	十卷

享和元^{辛酉}歲冬十一月

皇都書林

浪華書林

出雲寺文治郎

小川多丸衛門

殿 為 八

高橋平助

柳原喜兵衛

森本太助

畫

明

新

出

本

林

